

CA Business Service Insight

管理ガイド

8.2.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、

(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの **Web** サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 概要	9
対象読者.....	9
役割.....	9
役割のロード.....	10
第 2 章: システム パラメータの設定	11
詳細設定.....	11
ACE2 パラメータの設定	12
アダプタ ウィザードのパラメータの設定	14
計算エンジンのパラメータの設定	15
カタログのパラメータの設定	19
コンテンツ転送のパラメータの設定	21
契約パラメータ.....	22
サービス デリバリ ナビゲータのパラメータの設定	25
現在のステータス エンジンのパラメータの設定	27
ダッシュボードのパラメータ	28
ドキュメントリポジトリのパラメータの設定	38
エクスポート パラメータの設定	39
フレームワーク パラメータの設定	40
言語リソース パラメータの設定	42
ローカライゼーション パラメータの設定	42
MSMQ キュー パラメータの設定	43
クイック メトリックのパラメータの設定	44
レポート パラメータの設定	45
ブックレット パラメータの設定	47
リソース管理パラメータの設定	48
SMTP パラメータの設定.....	48
システム パラメータの設定	49
シノニム モードの変更: パブリック vs プライベート	51
第 3 章: ACE1 および ACE2 (Aggregation and Correlation Engine)	53
デフォルト エンジンの管理	53
ACE 移行サービス	54

計算および 8.2 へのアップグレード	54
ACE 移行サービスの場合	55
計算エンジンの概要	56
有効期間を変更した新規契約バージョン	57
再計算履歴	58
再計算の理由	59
イベント固有性	62
インスタンス管理	62
複数の現在のステータス エンジン インスタンス	63
ACE1 インスタンスへの契約関係者の割り当て	63
未定義のインスタンスへの契約関係者の割り当て	64
インスタンスへの複数の契約関係者の割り当て	64
ACE1 インスタンスへのメトリックの割り当て	65
各メトリックの ACE1 インスタンスの割り当ての変更	66
ACE1 インスタンスへのメトリックの割り当て - 一括管理	66
ACE1 インスタンスへの契約関係者の割り当て - 一括管理	67
ACE1 および ACE2 間のマイグレーション	67

第 4 章: ACE1 (Aggregation and Correlation Engine) 69

ACE1 サイクル	70
ACE1 での計算順序	71
診断ツールの実行	72
ACE1 通信モジュール/コンソール	73
コンソール モードでのエンジンの実行	74
直接通信の有効化	75
ACE インスタンスの追加	80
同じサーバへの追加インスタンスのインストール	81
新しいサーバへの追加インスタンスのインストール	82
ACE インスタンスのアンインストール	82
ACE インスタンスのアンインストール	83
追加の ACE インスタンスの実行	83
複数の ACE インスタンス	83
複数の ACE インスタンスの設定	84
ACE インスタンスのメッセ-ジのログ	85

第 5 章: ACE2 (Aggregation and Correlation Engine 2) 87

ACE2 マネージャのコンポーネント	88
ACE2 ブリッジ	89

ACE2 への PSL ワーカーの追加	90
ACE2 からの PSL ワーカーの削除	91
ACE2 の機能	91
継続的な計算	91
ACE2 での計算順序	92
計算ポリシー	93
デフォルト ポリシー	93
クラスタ化されていないメトリック用のデフォルト	94
クラスタ化メトリック用のデフォルト	94
モニタリングおよび制御	95

第 6 章: レポート 97

管理レポート	97
データ ロード中フォーム - 保留中レコードを表示	97
管理 - スケジュール ステータス	98
管理 ACE2 レポート	99
その他のレポート	100
管理 PSL (ACE1) レポート	103
セキュリティ レポート	111
データベース レポート	111
データベース オブジェクトの分析ステータス	112
Oracle のパラメータ リスト	113
テーブル インデックス	114
テーブルスペースのステータス	115
テーブルスペースの使用状況	116
事前定義済みレポート	116
すべてのメトリック レポート (今月)	116
すべてのメトリック レポート (先月)	117
BRV 契約コンプライアンス (日単位)	117
BRV 契約コンプライアンス (月単位)	117
BRV 契約偏差 (日単位)	117
BRV 契約偏差 (月単位)	118
BRV メトリック サービス レベル (日単位)	118
BRV メトリック サービス レベル (日単位、ターゲットなし)	118
BRV メトリック サービス レベル (時間単位)	118
BRV メトリック サービス レベル (時間単位、ターゲットなし)	118
BRV メトリック サービス レベル (月単位)	118
BRV メトリック サービス レベル (月単位、ターゲットなし)	119
BRV メトリック サービス レベル (四半期単位)	119

BRV メトリック サービス レベル (四半期単位、ターゲットなし).....	119
BRV メトリック サービス レベル (週単位)	119
BRV メトリック サービス レベル (週単位、ターゲットなし).....	119
-BRV メトリック サービス レベル (年単位)	120
BRV メトリック サービス レベル (年単位、ターゲットなし).....	120
サービス レベル - メトリック 対 ターゲット (今月)	120
サービス レベル コンプライアンス (今月)	120
サービス レベル コンプライアンス (先月)	120
コマンド ラインからのサービスの実行	120
コマンド ラインからの ACE1 の実行	121
コマンド ラインからの ACE1 サービスのインストール	121

第 7 章: パスワード 123

パスワード更新ユーティリティ	124
パスワード更新ユーティリティの使用	126
パスワードの非表示/暗号化	127
パスワードの暗号化の場所	128
パスワードの非表示 (暗号化)	129

第 1 章：概要

このガイドでは以下のような管理タスクについて説明します。

- システム パラメータの設定
- ACE1 および ACE2（Aggregation and Correlation Engine）の使用
- レポートの生成
- コマンドラインからの ACE1 の実行

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[対象読者](#) (P. 9)

[役割](#) (P. 9)

対象読者

このガイドは以下のユーザを対象としています。

- CA Business Service Insight コンポーネント（クライアントまたはサーバ側）のインストールまたはメンテナンスの担当者
- CA Business Service Insight セキュリティ法則の確認または受理の担当者
- Windows オペレーティングシステムのセキュリティの基本事項を理解している
- ネットワーキングアーキテクチャ、設計および管理の基本事項を理解している

役割

すべての CA Business Service Insight ユーザには 1 つ以上の役割が割り当てられています。役割は、ユーザが CA Business Service Insight 内部で実行できるアクションと実行できないアクションを決定します。ユーザがアプリケーションにアクセスすると、そのユーザが実行できるアクションのみが CA Business Service Insight ユーザインターフェースに表示されます。

Business Service Insight のクリーンインストールを実行した後は、「Insight スーパー管理者」という 1 つの役割を利用できます。この役割は編集できません。

役割のロード

ユーザに追加の役割を割り当てるために、サポート サイトから役割をロードできます。

追加の役割をロードするには以下の手順に従います。

1. サポート サイト (<https://support.ca.com>) に移動します。
2. ログインして、[Download Center] - [Products] を選択します。
3. [All Products]の下にある[CA Business Service Insight - Windows All]を選択し、リリース 8.2 を選択して [Go] ボタンをクリックします。

製品コンポーネントのページが開き、「CA Business Service Insight Pre Defined Roles r8.2, CDM07160723M.iso」のダウンロード オプションが表示されます。

4. [Download] をクリックし、指示に従います。

注: rolesPackage.bat および rolesPackage.sql ファイルは、BSI のインストール フォルダに保存します。

5. rolePackage.bat ファイルをダブルクリックします。
6. ユーザ名、パスワード、およびデータベース名を入力します。
7. スクリプトの実行中にエラーが報告されていないかを確認します。
8. [管理] - [サイト設定] - [役割] に移動します。
新しい役割が表示されます。

第 2 章：システム パラメータの設定

多くのパラメータを UI（ユーザ インターフェース）から設定できます。

ユーザ インターフェース内にあるパラメータのみを変更します。UI からアクセス可能なシステム パラメータを探すには、[管理] - [サイト設定] - [詳細] に移動します。

注: 詳細な変更については、CA サポートにお問い合わせください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[詳細設定 \(P. 11\)](#)

[シノニム モードの変更：パブリック vs プライベート \(P. 51\)](#)

詳細設定

[詳細設定] を使用すると、上級ユーザは特定の詳細な設定を行うことができます。これには、いくつかの契約設定、システム設定、ローカライゼーション設定、計算エンジン、レポート、エクスポート、およびダッシュボードの設定などがあります。

[詳細設定] にアクセスするには、[管理] - [サイト設定] - [詳細] に移動します。

左側のツリーからオプションを選択し、変更可能なパラメータを表示します。

ACE2 パラメータの設定

ACE2 に関連するパラメータを設定します。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[ACE2] を選択します。

ACE2 のパラメータが表示されます。

ACE2 ポート

ACE2 が実行されるサーバのポート番号。

ACE2 サーバ

ACE2 が実行されるサーバの名前。

デフォルト PSL インスタンス

契約関係者やメトリックが割り当てられるデフォルトのインスタンス。

詳細登録の有効化

ビジネス ロジックのデフォルト登録を有効にします。

ACE2 有効

ACE2 のアクティブ/非アクティブを切り替えます。

1 : アクティブになっています

0 : アクティブになっていません

ACE2 がデフォルト エンジン

ACE2 をデフォルトのエンジンにするかどうかを決定します。

デフォルト : 1

最大データ イベント サイズ

100000

定義済みブリッジの監視対象イベントを有効化

ブリッジから送られてくるイベントを有効にするかどうかを決定します。

定義済みブリッジの監視対象イベント

イベントが監視されるブリッジを指定します。

再登録を使用

リソース構造の内部変更に対して再計算が行われます。有効な値を以下に示します。

- (1) リソース階層の変更を含んでいるが、登録結果が変更されないリソース構造の変更は計算されます。
- (2) リソース階層の変更を含んでいるが、登録結果が変更されないリソース構造の変更は計算されません。
- 値：0

ワーカー統計履歴期間

このパラメータを使用すると、[管理 ACE2 - ワーカー キュー モニタリング] に表示されるミッション キューの負荷テーブルのデータが、設定可能な期間に従って除去されます。このユーザには、特定の期間の作業者キューの統計履歴のみが表示されます。

デフォルト：14 日。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

アダプタ ウィザードのパラメータの設定

このオプションを使用すると、アダプタ ウィザードに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[アダプタ ウィザード] を選択します。
アダプタ ウィザードのパラメータが表示されます。

アダプタリスナ アドレス

アダプタ リスナが存在する IP アドレスまたは URL アドレス

サンプル ファイルの最大サイズ

サンプル ファイルの最大サイズ。デフォルト : 10

行数

最大行数 (デフォルトは 100)

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

計算エンジンのパラメータの設定

このオプションを使用すると、計算エンジンに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[計算エンジン] を選択します。

計算エンジンのパラメータが表示されます。

トラッキング再計算の有効化

再計算履歴をモニタして情報を保存するかどうかを決定します。

パフォーマンス統計の収集

パフォーマンス統計情報を収集するかどうかを決定します。

制限付き登録

ビジネス ロジック内で実行される登録を特定のリソースに制限します。これらのリソースは、このビジネス ロジックが属している契約の主要契約関係者に割り当てられます。

最大イベントブロック サイズ

ビジネス ロジック複数イベントハンドラに単一のブロックで送信できるイベントの最大数を設定します。

メトリック順序

それぞれのエージェントが計算される順序を設定します。

再計算をログ記録する最小タイムスパン

デバッグのために期間イベントを出力するかどうかを決定します。

モード マスク

計算するモードを設定します (1-15)

事前計算の日数

有効期間の前に計算を開始する日数を設定します。

パフォーマンス監視レベル

パフォーマンス モニタリングが実行されるレベルを設定します。

0 = オフ

デバッグのために期間イベントを出力

デバッグのために期間イベントを出力するかどうかを決定します。

未完了のエージェントを繰り返す

最大計算間隔にかかわらず、次のエージェントに移動する前にエージェントの完全な計算を行うかどうかを決定します。

リソース キャッシュ下限

キャッシュ内で可能なリソースの最低量を設定します。

リソース キャッシュ上限

キャッシュ内で可能なリソースの最大量を設定します。

スクリプト タイムアウト

ビジネス ロジック プロシージャ コールのタイムアウト期間を設定します。

キー フィールドのサイズ

T_SLALOM_OUTPUT の [キー] フィールドの最大サイズを設定します。

テーブル名フィールドのサイズ

T_SLALOM_OUTPUT の [テーブル名] フィールドの最大サイズを設定します。

値フィールドのサイズ

T_SLALOM_OUTPUT の [値] フィールドの最大サイズを設定します。

1 = 低

2 = 中

3 = 高

トラッキング期間のみの再計算履歴を追跡

トラッキングするエージェントの再計算履歴をモニタするかどうかを決定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

メトリックの状態を設定する方法

1. [メトリックの状態] を選択します。
メトリックの状態のパラメータが表示されます。

削除間隔

メトリックの状態をクリーンアップする間隔を設定します（時間単位）。

状態レベル数

メトリックの状態レベルの数を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値が更新されます。

第 1 レベルの状態を設定する方法

1. [計算エンジン] - [メトリックの状態] - [第 1 レベルの状態] を選択します。
第 1 レベルの状態のパラメータが表示されます。

削除までの時間

現在のレベルの状態がクリーンアップの対象となる時間数を設定します。

保存間隔

現在のレベルの状態の間隔を時間数で設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値が更新されます。

第 2 レベルの状態を設定する方法

1. [計算エンジン] - [メトリックの状態] - [第 2 レベルの状態] を選択します。
第 2 レベルの状態のパラメータが表示されます。

削除までの時間

現在のレベルの状態がクリーンアップの対象となる時間数を設定します。

保存間隔

現在のレベルの状態の間隔を時間数で設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値が更新されます。

カタログのパラメータの設定

このオプションを使用すると、カタログに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[カタログ] を選択します。

カタログのパラメータが表示されます。

監査証跡(Y/N)

カタログの監査証跡を設定するかどうかを示します。

契約関係者の検証

契約テンプレートまたはサービス定義から契約を作成する際に、契約関係者の検証が失敗した場合のシステムの動作を設定します。

有効な値を以下に示します。

警告：エラーを通知し、操作の続行を可能にする警告メッセージが表示されます。

エラー：エラーを通知するエラーメッセージが表示され、操作は続行されません。

何もしない：エラーメッセージも警告メッセージも表示されません。

有効日の検証

契約テンプレートまたはサービス定義から契約を作成する際に、有効期間の検証が失敗した場合のシステムの動作を設定します。

有効な値を以下に示します。

警告：エラーおよび操作の続行が可能であることを通知する警告メッセージが表示されます。

エラー：エラーを通知するエラーメッセージが表示され、操作は続行されません。

何もしない：エラーメッセージも警告メッセージも表示されません。

セキュリティモード

テンプレートライブラリ、契約テンプレート、およびサービス定義への制限を可能にするか（制限済み）、制限しないか（パブリック）を設定します。

2. オプションの横の[編集]アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

コンテンツ転送のパラメータの設定

このオプションを使用すると、コンテンツ転送に関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[コンテンツ転送] を選択します。

コンテンツ転送のパラメータが表示されます。

コンテンツ転送ジョブ 自動リフレッシュ間隔

コンテンツ転送ジョブの秒単位の自動リフレッシュ間隔。

コンテンツ転送検索の制限

サーバから返される結果の検索制限。

コンテンツ転送サーバ

コンテンツ転送サーバのアドレス。

転送でサポートされる最大変換エントリ数

変換テーブルのエンティティの転送可能な（最大）エントリ数。

テンプレートライブラリ セキュリティ転送の保存オプション [A/I/N]

「A」：転送時に含まれるアイテムにセキュリティを適用する

「I」：交差に含まれるアイテムにセキュリティを適用する

「N」：転送時に含まれるアイテムにセキュリティを適用しない

テンプレートライブラリ、契約テンプレート、サービスレベルテンプレートと共にセキュリティを転送

テンプレートライブラリ、契約テンプレート、サービスレベルテンプレートと共にセキュリティを転送

リソース ツリーを含めて転送 - デフォルト

契約がリソース グループを含めて登録またはクラスタ化されると、すべてのリソース グループ構造が転送されます。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

契約パラメータ

このオプションを使用すると、契約に関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[契約] を選択します。

契約のパラメータが表示されます。

カスタム属性を契約リスト検索に追加し、契約リスト グリッドに表示する (Y/N)

カスタム属性を契約リスト検索に追加できるようにし、契約リスト グリッドに表示する場合に設定します。

メトリック内の契約バージョン間でタイム ゾーンの変更を許可 (Y/N)

契約バージョン間でメトリック内のタイム ゾーンを変更できるようにする場合に設定します。

一括測定設定を許可 (Y/N)

ユーザが複数メトリックの測定ステータスを変更できるようにする場合は、[Y] に設定します。

サービス オーバーライドを許可 (Y/N)

契約作成時にサービスをオーバーライドできるようにします。

複製されたメトリック名パターン

複製されたメトリック名パターン、ソース メトリック名、メトリック サービス

パラメータ データのカスタム ソースの有効化 (Y/N)

- すべてのサービスに関連するアイテムを表示 (Y/N)
- 契約作成ウィザードに、すべてのサービスに関連するアイテムを表示するかどうかを設定します。
- パラメータに対して外部データ ソースを許可するかどうかを設定します。

パラメータ データ URL のカスタム ソース

パラメータ値を取得するための外部データ ソースへのパスを設定します。

注: URL パスは、Web ブラウザを使用して CA Business Service Insight にアクセスするために使用される CA Business Service Insight のコンピュータと同じ名前に設定する必要があります。

契約リストを表示する際に全データを情報ツールヒントに表示しない(Y/N)

([契約] ページで各契約の横に表示される) 情報ツールヒントにデータを表示できるようにする場合に設定します。

メトリック ウィザードで[メモ]フィールドを展開(Y/N)

[メモ] フィールドをデフォルトで展開する場合に設定します。

最大リソース

静的クラスタ化で選択できるリソースの最大数を設定します (1 ～ 100) 。

メトリック メモのデフォルトのシステム エンコーディング UTF-8

メトリック メモを HTML から DOCX に変換するとき、HTML にエンコーディングが指定されていない場合は、このエンコーディングが使用されます。

前バージョンでのメトリック名を変更

以前の契約バージョン間でメトリックの名前を変更できるようにする場合に設定します。

インライン メモを使用

メモをインラインで入力するか、またはアップロードします。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

エクスポート パラメータを設定する方法

1. [詳細設定] ページで、[契約] - [エクスポート パラメータ] を選択します。
エクスポートのパラメータが表示されます。

チャートの形式

チャートの形式を JPG または EMF に設定します。

ブックレットの生成時にメモ フィールドに置かれたイメージをサポート(Y/N)

ブックレットの生成時に、[メモ] フィールドに配置された画像が、[Y] の場合はレポートに含められ、[N] の場合はレポートに含まれません。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

サービス デリバリ ナビゲータのパラメータの設定

このオプションを使用すると、契約ナビゲータに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[契約ナビゲータ] - [設定] を選択します。

設定パラメータが表示されます。

保存済みモデルをデフォルト モードでロード

保存済みモデルをデフォルトとしてロードすることを許可するかどうかを設定します

注: [N] に設定すると、モデルを保存する場合に、[ロードするデフォルト モデルとして設定] チェック ボックスが無効になります。

エラー デバッグ メッセージの有効化

ユーザがサーバエラー メッセージを見ることを許可するかどうかを設定します

表示するエンティティ数

モデルに表示されるエンティティの数を設定します

セカンダリ契約関係者が契約の親として動作

セカンダリ契約関係者がプライマリ契約関係者と同様に振舞うことを許可するかどうかを設定します

表示されるリソース数

モデルに表示されるリソースの数を設定します

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

ユーザ インターフェース パラメータの設定方法

1. [契約ナビゲータ] - [ユーザ インターフェース] を選択します。

ユーザ インターフェースのパラメータが表示されます。

レイアウトを自動適用

レイアウトを自動で適用するかどうかを設定します

関係を表示

関係を表示するかどうかを設定します

テキストを表示

テキストを表示するかどうかを設定します

ズームしてウィンドウを調整

ズームしてウィンドウを調整することを有効にするかどうかを設定します

ウィンドウの高さ

[サービス デリバリ ナビゲータ] ウィンドウの高さを設定します

ウィンドウの幅

[サービス デリバリ ナビゲータ] ウィンドウの幅を設定します

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

現在のステータス エンジンのパラメータの設定

このオプションを使用すると、現行ステータス エンジンに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[現在のステータス] - [アクティブ化] を選択します。

アクティブ化パラメータが表示されます。

[現在のステータスをアクティブ化]

現在のステータス サービスをアクティブにするかどうかを定義します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

自動更新間隔(秒)を設定する方法

1. [詳細設定] ページで、[現在のステータス] - [自動更新間隔 (秒)] を選択します。

自動更新間隔のパラメータが表示されます。

エージェント自動更新の初期間隔

現在のステータス計算を初めて開始するまでの初期タイムアウトを設定します (30 ~ 3600 秒)。

エージェント自動更新の反復間隔

現在のステータスのメトリックの保留中の計算を試行する間隔を設定します (30 ~ 3600 秒)。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

ダッシュボードのパラメータ

このオプションを使用すると、ダッシュボードに関連するパラメータを設定できます。

注: これらの設定は変更しないでください。変更すると、ダッシュボードのパフォーマンスが低下する場合があります。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] を選択します。

ダッシュボードのパラメータが表示されます。

許可されているカスタム ナビゲーションの最大数

カスタム ナビゲーションの最大数を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

アドレスを設定する方法

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード]、[アドレス] を選択して、ユーザがダッシュボードエンジンアドレスを定義できるようにします。これらのアドレスにより、リモート コンポーネントがダッシュボードと対話できるようになります。

アドレスのパラメータが表示されます。

ダッシュボード サービス URL

Web クライアントのリクエストをサービスするリモート サーバ オブジェクトの URL を定義します。

エージェント時間間隔(秒)を設定する方法

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [エージェント時間間隔] を選択すると、ダッシュボード エージェントの間隔を設定できます。これらの設定によって、新しい計算結果およびエンティティの定義の変更を反映してダッシュボードが更新される頻度が決定されます。

変更されたエンティティの初回間隔

変更されたエンティティの処理を最初に試行するまでの間隔（秒単位）。変更検出サイクルは、変更されたエンティティを探し、ダッシュボード内のすべてのエンティティを更新します。

範囲：30 ～ 3600 秒

デフォルト：500 秒

変更されたエンティティの繰り返し間隔

ダッシュボード内の変更されたエンティティを計算する各サイクルの間隔（秒単位）。変更検出サイクルは、変更されたエンティティを探し、ダッシュボード内のすべてのエンティティを更新します。

範囲：60 ～ 3600 秒

デフォルト：300 秒

現在のステータス変更の初回間隔

現在のステータスのメトリック設定の変更の検出を試行するまでの間隔（秒単位）。現在のステータス計算に対してメトリックを有効または無効にすると、ダッシュボードはメトリックのリストからメトリックを追加または削除します。

範囲：30 ～ 600 秒

デフォルト：120 秒

現在のステータス変更の繰り返し間隔

現在のステータスのメトリック設定の各変更サイクルの間隔（秒単位）。

範囲：60 ～ 360 秒

デフォルト：360 秒

現在のステータスの初回間隔

現在のステータスのメトリックの結果処理を初めて試行するまでの間隔（秒単位）。

現在のステータス エンジン、現在のステータスのトラッキング期間をモニタするように設定された、ダッシュボード内のエンティティの結果を計算します。

範囲：10 ～ 3600 秒

デフォルト：10 秒

現在のステータスの繰り返し間隔

現在のステータスのメトリックの更新処理を試行するまでの間隔（秒単位）。現在のステータス エンジン は、現在のステータスのトラッキング期間の結果をモニタするように設定された、ダッシュボード内のエンティティの結果を計算します。

範囲： 10 ～ 3600 秒

デフォルト： 180 秒

現在のステータス変更の初回間隔

現在のステータスのメトリック設定の変更の検出を試行するまでの間隔（秒単位）。

エンティティ削除の初期間隔

エンティティの削除を試行するまでの間隔（秒単位）。

範囲： 7200 ～ 18000 秒

デフォルト： 10800 秒

レポートしきい値テーブルのデータ入力の初回間隔

レポートしきい値テーブルのデータ入力を開始するまでの間隔（秒数） これらのテーブルは、しきい値レポートを正常に実行するために入力されます。

範囲： 1000 ～ 2000 秒

デフォルト： 1800 秒

レポートしきい値テーブルのデータ入力の繰り返し間隔

レポートしきい値テーブルのサイクルの各入力の間隔（秒単位）。

範囲： 7200 ～ 18000 秒

デフォルト： 10800 秒

PSL イベント間隔

PSL イベント処理の後続サイクルの間隔（秒単位）。各サイクルは、メトリックの更新された結果に対して **PS** テーブルをポーリングし、ダッシュボード内のすべてのエントリを更新します。

範囲： 10 ～ 60 秒

デフォルト： 30 秒

リソース変更の最大開始時間

リソース構造変更サイクルが発生する最も遅い時間。デフォルト： 22:00:00

リソース変更の最小開始時間

リソース構造変更サイクルが発生する最も早い時刻。デフォルト：
21:00:00

未計算エンティティの初回検出タイムアウト

ダッシュボード内の未計算のエンティティの計算を初めて試行するまでの間隔（秒単位）。

範囲： 60 ～ 3600 秒

デフォルト： 180 秒

未計算エンティティの繰り返し検出間隔

ダッシュボード内のまだ未計算のエンティティを計算する各サイクルの間隔（秒単位）。

範囲： 300 ～ 3600 秒

デフォルト： 3600 秒

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

平均スコア ロールアップの選択

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [平均スコア ロールアップ] を選択すると、デフォルトのメトリック スコアを設定できます。
平均スコア ロールアップの設定パラメータが表示されます。

緑の重大度のデフォルトスコア

重大度が緑のメトリックのデフォルトのスコアです。

デフォルト： 100

赤の重大度のデフォルトスコア

重大度が赤のメトリックのデフォルトのスコアです。

デフォルト： 0

黄色の重大度のデフォルトスコア

重大度が黄色のメトリックのデフォルトのスコアです。

デフォルト： 50

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

クライアント更新間隔

1. [詳細設定] ページで [ダッシュボード] - [クライアント更新間隔] を選択します。クライアントが、ダッシュボード上で計算されていないエンティティに対して更新された結果の取得を試行する間隔 (秒) を設定することができます。

クライアントの更新間隔の設定パラメータが表示されます。

クライアント自動リフレッシュ間隔(分)

最初の間隔の遅延時間 (分単位) を定義します。デフォルト : 30 秒

クライアント間隔の有効化

クライアント初回間隔(秒)

最初の間隔の遅延時間 (秒単位) を定義します。ウィジェットを追加した場合、クライアントはこの間隔を待機した後にサーバからの計算結果のリクエストを実行します。

この間隔が経過しても結果がない場合、クライアントは設定された時間待機した後、サーバからの新しい要求を実行します。デフォルト : 5 秒

クライアント間隔遅延時間(秒)

計算結果がないダッシュボード上のエンティティに対するサーバからの別のリクエストをクライアントが試行するまでの間隔 (秒単位)。デフォルト : 60 秒

ページリフレッシュタイプ - ページのリフレッシュに使用されるリフレッシュタイプ。

有効な値

0 : ソフトリフレッシュ

1 : ハードリフレッシュ

クライアント自動リフレッシュ間隔の有効化

有効な値

true : クライアントの自動リフレッシュ間隔を有効にします

false : クライアントの自動リフレッシュ間隔を無効にします。

デフォルト : True

有効な値

true : クライアントは、クライアント間隔の遅延値に従って計算されなかったウィジェットの結果の取得を試行します。

false : クライアントは、計算結果の定期的なリクエストを開始しません。

デフォルト : True

クライアント間隔の有効化

クライアントの間隔を無効にするためのフラグ。

ハードリフレッシュ時間間隔(分)

ハードリフレッシュが発生するまでの遅延時間 (分単位)。

範囲 : 0 ~ 120 分

デフォルト : 120 分

ページリフレッシュタイプ

ページをリフレッシュするために使用されるリフレッシュのタイプ。

有効な値

0 : ソフトリフレッシュ

1 : ハードリフレッシュ

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

現在のステータス関連設定

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [現在のステータス関連設定] を選択します。現在のステータスエンジンとやりとりするための設定を有効にすることができます。

現在のステータスに関連する設定パラメータが表示されます。

ダッシュボードエンジンリスナアドレス

現在のステータスが対話する、リモートのダッシュボードリスナのアドレス。

デフォルト : tcp://localhost:8004/CalcServer

リモートの現在のステータス リスナの URL

ダッシュボード リクエストをリスニングする、リモートの現在のステータス オブジェクトのアドレス。

デフォルト : tcp://localhost:8005/CalcRequestServer

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

カスタム数ロールアップ

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [カスタム数ロールアップ] を選択すると、数のロールアップ方法に関連する設定を行うことができます。

カスタム数ロールアップの設定パラメータが表示されます。

赤のエンティティの割合

レベル $n+1$ の重大度が赤のアイテムの割合がこの値より大きい場合、レベル n のステータスは赤になります。

デフォルト : 33.5 パーセント

黄色のエンティティの割合

レベル $n+1$ の重大度が黄色のアイテムの割合の合計がこの値より大きい場合、重大度のステータスは黄色になります。

デフォルト : 33.5 パーセント

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

ダッシュビュー背景画像設定

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [ダッシュビュー背景画像設定] を選択します。標準のダッシュビューの背景画像を設定できます。

ダッシュビュー背景画像の設定パラメータが表示されます。

背景画像の最大アップロード サイズ

ダッシュビュー背景画像のアップロードファイルの最大サイズ (KB)。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

デフォルトしきい値

1. [詳細設定] ページで [ダッシュボード] - [デフォルトしきい値] を選択します。ダッシュボード上でしきい値を持たないエンティティに対して、デフォルトのしきい値を設定できます。

デフォルトのしきい値の設定パラメータが表示されます。

複合エンティティの赤のデフォルトしきい値

メトリック以外のエンティティの重大度が赤のしきい値のデフォルト値です。ウィジェットが平均ロールアップ方法を使用している場合、エンティティのスコアは、その子のスコアの平均になります。メトリックについては、重大度の色は数値に変換されます。エンティティの色は、しきい値に従い最終スコアに基づいて決定されます。

範囲：0 ～ 100

デフォルト：33

複合エンティティの黄色のデフォルトしきい値

これは、メトリック以外のエンティティの重大度が黄色のしきい値のデフォルト値です。ウィジェットが平均ロールアップ方法を使用している場合、エンティティのスコアは、その子のスコアの平均になります。メトリックについては、重大度の色は数値に変換されます。エンティティの色は、しきい値に従い最終スコアに基づいて決定されます。

範囲：0 ～ 100

デフォルト：66

メトリックの赤のデフォルトしきい値

これは、ダッシュボードまたは CA Business Service Insight にしきい値が設定されていないメトリックの赤のしきい値のデフォルト値です。メトリックの重大度ステータスは、メトリックの偏差をしきい値と比較することにより決定されます。デフォルト：67

メトリックの黄色のデフォルトしきい値

これは、ダッシュボードまたは **CA Business Service Insight** にしきい値が設定されていないメトリックの重大度が黄色のしきい値のデフォルト値です。メトリックの重大度ステータスは、メトリックの偏差をしきい値と比較することにより決定されます。

デフォルト： 33

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

一般

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [全般] を選択します。
全般設定のパラメータが表示されます。

画面解像度の調整の有効化

ダッシュボードを制御するための画面解像度の調整を有効にします。

ワークスペースでのスクロールの有効化

true：ワークスペースのスクロールバーを有効にします。

false：ワークスペースのスクロールバーを無効にします。

デフォルト： false

ダッシュボードクエリ用の Oracle ヒント

PSL テーブルに対するダッシュボードクエリのパフォーマンスを改善します。

注：現在値は変更しないでください。

しきい値精度

レポートは目標値に関連する受信した値を比較します。ウィジェットはしきい値設定に関連する受信した値を比較します。受信した値がしきい値とまったく同じ場合、レポートは同じ色を表示しますが、ダッシュボードは別の色を表示します。

true：デフォルト。表示色は上記の説明のとおりにより制御されます。

false：ウィジェットでの表示色は、90 未満が赤、95 未満が黄色になります。

注: このパラメータ値を変更した場合、ダッシュボードエンジンを再起動し、IIS をリセットします。

注: パラメータを変更し、エンジンを再起動した場合、ウィジェットの重大度が変更されるのは、ウィジェットが再計算された後になります。この変更は、ウィジェットに対応する PSL から新しいイベントを取得することによって実行されます。

SSO を内部で使用する

true : ダッシュビュー ページからログインするために、ダッシュボードが **Single-Sign-On** を内部で使用するのを有効にします。

false : ダッシュビュー ページからログインするために、ダッシュボードが **Single-Sign-On** を内部で使用するのを無効にします。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

PSL イベント処理

1. [詳細設定] ページで、[ダッシュボード] - [PSL イベント処理] を選択します。ダッシュボードが PSL イベントを処理する方法に関連した設定を作成することができます。

PSL イベント処理の設定パラメータが表示されます。

各サイクルの PSL イベントの数

1 トランザクションごとに処理される PSL イベントの数。

範囲 : 10 ~ 100

デフォルト : 10

PSL イベント統計時間の間隔(分)

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

ドキュメントリポジトリのパラメータの設定

このオプションを使用すると、ドキュメントリポジトリに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[ドキュメントリポジトリ] を選択します。
ドキュメントリポジトリのパラメータが表示されます。

最大ドキュメント サイズ

アップロード可能なドキュメントの最大サイズ（バイト単位）を設定します。

最大画像サイズ

アップロード可能な画像の最大サイズ（キロバイト単位）を設定します。

事前定義済みのファイル タイプ

契約ドキュメントのファイル タイプの拡張子を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

エクスポート パラメータの設定

このオプションを使用すると、エクスポートに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[エクスポート] を選択します。

エクスポートのパラメータが表示されます。

エクスポートのコード ページ

エクスポートされるレポートのコード ページ定義を設定します (0 = ANSI など)

エクスポート ファイルのファイル形式

ファイル形式 (Unicode) を設定します

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

フレームワーク パラメータの設定

このオプションを使用すると、フレームワークに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[フレームワーク] - [カスタム属性] を選択します。
カスタム属性のパラメータが表示されます。

カスタム属性データのカスタム ソースの有効化(Y/N)

カスタム属性に対して外部データ ソースを許可するかどうかを設定します。

カスタム属性データのカスタム ソース URL

カスタム属性値を取得するための外部データ ソースへのパスを設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

サービスを構成する方法

1. [詳細設定] ページで、[フレームワーク] - [サービス コンポーネント] を選択します。
サービスのパラメータが表示されます。

属性 1 を表示(Y/N)

サービスに属性 1 を表示するかどうか

属性 2 を表示(Y/N)

サービスに属性 2 を表示するかどうか

属性 3 を表示(Y/N)

サービスに属性 3 を表示するかどうか

属性 4 を表示(Y/N)

サービスに属性 4 を表示するかどうか

サービス コンポーネントのメモの表示(Y/N)

サービスに [メモ] フィールドを表示します。

属性 1 のラベル

サービスの 1 番目の属性リストに使用するテキスト ラベル

属性 2 のラベル

サービスの 2 番目の属性リストに使用するテキスト ラベル

属性 3 のラベル

サービスの 3 番目の属性リストに使用するテキスト ラベル

属性 4 のラベル

サービスの 4 番目の属性リストに使用するテキスト ラベル

属性 1 の SQL クエリ

サービスの 1 番目の属性リストに使用するクエリ

属性 2 の SQL クエリ

サービスの 2 番目の属性リストに使用するクエリ

属性 3 の SQL クエリ

サービスの 3 番目の属性リストに使用するクエリ

属性 4 の SQL クエリ

サービスの 4 番目の属性リストに使用するクエリ

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

言語リソース パラメータの設定

このオプションを使用すると、言語リソースに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[言語リソース] を選択します。
言語リソースのパラメータが表示されます。

デフォルト言語

システムのデフォルト言語を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

ローカライゼーション パラメータの設定

このオプションを使用すると、ローカライゼーションに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[ローカライゼーション] - [契約フィールド] - [ドメインカテゴリの関係] を選択します。
ドメイン カテゴリの関係のパラメータが表示されます。

次の値以上 - ローカライズ済みテキスト

[目標ステートメント] タブで、ローカライズされたテキストが「次の値以上」のターゲット関係を表すように設定します。

次の値以下 - ローカライズ済みテキスト

[目標ステートメント] タブで、ローカライズされたテキストが「次の値以下」のターゲット関係を表すように設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

MSMQ キュー パラメータの設定

このオプションを使用すると、MSMQ キューのパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[キュー] を選択します。

MSMQ キューのパラメータが表示されます。

MSMQ マシンの現在のステータス

MSMQ マシンのステータスです。

ダッシュボード MSMQ マシン

ダッシュボード MSMQ マシンを一覧表示します。

デフォルトの MSMQ マシン

デフォルトの MSMQ マシンの名前です。

送信プロバイダ

送信プロバイダの名前（つまり、MSMQ）です。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

クイック メトリックのパラメータの設定

このオプションを使用すると、クイック メトリックに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[クイック メトリック] を選択します。

クイック メトリックのパラメータが表示されます。

プレビュー ペイン内のイベントの最大数

選択したデータ プレビュー ペインに表示されるイベントの最大数を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

レポートパラメータの設定

このオプションを使用すると、レポートに関連するパラメータを設定できます。

次の手順に従ってください：

1. 「詳細設定」 ページで、「レポート」 を選択します。

レポートのパラメータが表示されます。

計算完了スケジュール タイムアウト

レポートを送信する準備ができているかどうかをスケジューラが検証する最大の間隔（日数）を設定します。

計算完了スケジュール タイムアウト アクション

レポートの送信がタイムアウトに達した場合に行われるアクションを決定します

チャート結果

レポート グラフの結果を設定します

修正

レポートの修正表示を設定します

最大修正結果

レポートの最大の修正結果を設定します

日付形式

ファイルにスケジュールするための日付形式を設定します

偏差の精度

偏差レポートの精度を設定します

電子メールまたはファイルへの送信を承認または却下するダイアログ ボックスを表示します。

電子メール アドレスまたはファイルにレポートを送信する前に、確認ダイアログ ボックスを表示するかどうかを設定します

スケジュール済みブックレットの日付形式

作成されたスケジュール済みブックレットのファイル名に時刻を含めるか、日付のみにするかを設定します

最大エクスポート結果

レポートの最大のエクスポート結果を設定します

自由形式検索結果の最大数

自由形式の検索で返される結果の最大数。

自由形式行の最大数

自由形式の最大行数。

自由形式パラメータクエリを最適化

必要な行のみを選択して、自由形式クエリを最適化します。

ペナルティ精度

ペナルティ レポートの精度を設定します

印刷形式

レポートの印刷プレビュー形式を設定します

最大 Raw データ結果

レポートの最大の Raw データの結果を設定します

親フォルダからの継承が許可されたユーザをレポート(Y/N)

許可されたユーザをレポートが親フォルダから継承するかどうかを設定します

自由形式レポートの日付自動調整の使用

自由形式レポートの日付自動調整を使用するかどうかを指定します。

古いスタイルのデザインを使用

OG 7.0 以前のスタイル設計を使用します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

ブックレット パラメータの設定

このオプションを使用すると、ブックレットに関連するパラメータを設定できます。

次の手順に従ってください:

1. [詳細設定] ページで、[レポート] - [ブックレット] を選択します。

ブックレット パラメータが表示されます。

目次の更新を許可

ブックレットの目次が自動的に生成されるかどうかを制御します。

エンティティが見つからない場合にテーブル形式を維持

見つからないテキスト: カスタム属性

見つからないテキスト: メトリック

見つからないテキスト: パラメータ

見つからないテキスト: レポート

見つからないテキスト: サービス

見つからないテキスト: テーブル パラメータ

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。

[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。

3. [更新] をクリックして、変更を保存します。

値がリフレッシュされます。

リソース管理パラメータの設定

このオプションを使用すると、リソース管理に関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[リソース管理] を選択します。
リソース管理のパラメータが表示されます。

リソースあたりの変更セット

使用された変更セットをリソースごとに保存するかどうかを設定します。

表示される最大リソース数

表示可能なリソースの最大数を設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

SMTP パラメータの設定

このオプションを使用すると、SMTP に関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[SMTP] を選択します。SMTP のパラメータが表示されます。

デフォルトの文字セット

デフォルトの文字セットを設定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

システム パラメータの設定

このオプションを使用すると、システムに関連するパラメータを設定できます。

以下の手順に従います。

1. [詳細設定] ページで、[システム] を選択します。システムのパラメータが表示されます。

アクセシビリティ モード

ログイン ページに [アクセシビリティ モード] チェック ボックスを表示するかどうかを指定します。

アルファベットの検索リボンを表示 (Y/N)

アルファベットの検索リボンが表示できるかどうかを指定します。

クライアントの IP ヘッダ

HTTP ヘッダの値を指定します。

クライアント エラー ハンドラの有効化

クライアント エラー ハンドラを有効または無効にします。

ログ詳細モード (Y/N)

レポート作成時に、システムがメッセージを T_LOG にレポートするかどうかを指定します。

契約ナビゲータを新しいウィンドウで開く

契約ナビゲータを新しいウィンドウで開くかどうかを決定します。

ダッシュボードを新しいウィンドウで開く

ダッシュボードを新しいウィンドウで開くかどうかを指定します。

セキュアな Web サーバ

セキュアな Web サーバのネットワーク名または IP アドレスを指定します。

リッチ スクリプト エディタを使用

欧米言語のみをサポートする場合は、Y (リッチ スクリプト エディタ) を選択します。

極東言語をサポートするには、N (プレーン スクリプト エディタ) を選択します。

Web サーバ

Web サーバのネットワーク名または IP アドレスを指定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

セキュリティ パラメータを設定する方法

1. [システム] - [セキュリティ] を選択します。セキュリティのパラメータが表示されます。

事前認証の有効化

事前認証サービスを有効にするかどうかを指定します。

2 回のログイン失敗の間隔

2 回連続のログイン失敗間の、時間の最小の長さを指定します。デフォルトの時間は 1 時間です。ログインが失敗してからもう一度ログインを試みるまでの間に、これだけの時間待機するユーザは、ロックアウトにつながる [ログイン失敗の最大数] に影響を与えません。

例：ユーザがログイン試行に 1 回失敗してから、少なくとも 1 時間待機するとき、システムがユーザをロックアウトする前に、ユーザは今までどおりもう 3 回試行できます。

ログイン失敗の最大数

ユーザがログインに失敗しても許容される回数を指定します。ユーザがこの回数だけ失敗すると、そのユーザはシステムからロックアウトされます。デフォルトは 3 です。

CA Business Service Insight 管理者は `t_users` テーブルに移動し、ユーザをロック解除するために `user_status` を `ACTIVE` に設定できます。

事前認証 Web サービスの URL

事前認証 Web サービス ファイルのパスを指定します。

2. オプションの横の [編集] アイコンをクリックして、値を入力します。
[編集] アイコンが [更新] アイコンに変わります。
3. [更新] をクリックして、変更を保存します。
値がリフレッシュされます。

シノニム モードの変更: パブリック vs プライベート

このオプションにより、以下が可能になります。

- パブリック シノニムからプライベート シノニムへの変更
- プライベート シノニムからパブリック シノニムへの変更

パブリックからプライベートへの変更

パブリック シノニムからプライベート シノニムに変更するには、データベース上で以下のいずれかのプロシージャを呼び出します（OBLIDBADMIN としてデータベースに接続）。

```
begin
  prc_recreate_all_synonyms ('YES');
end
```

または

```
exec prc_recreate_all_synonyms ('YES');
```

プライベートからパブリックへの変更

プライベート シノニムからパブリック シノニムに変更するには、データベース上で以下のいずれかのプロシージャを呼び出します（OBLIDBADMIN としてデータベースに接続）。

```
begin
  prc_recreate_all_synonyms ('NO');
end
```

または

```
exec prc_recreate_all_synonyms ('NO');
```


第 3 章: ACE1 および ACE2 (Aggregation and Correlation Engine)

ACE1 および ACE2 (Aggregation and Correlation Engine) は、すべてのデータを正規化および計算する CA Business Service Insight エンジンです。ACE2 は新しいコンテンツのデフォルト エンジンです。CA Business Service Insight のインストール後、または CA Business Service Insight へのアップグレード後にコミットされた新しいメトリックはすべて、ACE2 に向けられます。メトリックは、インスタンス管理セクションで契約関係者を割り当てることによってコミットされます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[デフォルト エンジンの管理](#) (P. 53)

[ACE 移行サービス](#) (P. 54)

[計算エンジンの概要](#) (P. 56)

デフォルト エンジンの管理

ACE2 は ACE1 が発展したものです。CA は、将来のリリースで ACE1 を廃止することを計画しています。新しい機能は ACE2 に対してのみ開発されています。ユーザがアップグレードしている場合、現在のメトリックでアップグレードの前に存在していたものはすべてこれまでどおり ACE1 によって計算されます。新しいメトリックのみが ACE2 によって処理されます。CA ではデフォルト エンジンとして ACE2 を使用することをお勧めします。

すべての契約関係者は ACE2 に割り当てられます。これは、新規契約でのメトリック、および 8.0 にアップグレードする前に作成された既存の契約での新規のメトリックを含む、すべての新規メトリックが ACE2 に向けられることを意味します。これは新たに追加されたメトリックだけに適用されます。システムは、既存のコンテンツのマイグレーションを強制しません。

ACE1 をデフォルト エンジンとして使用する場合は、「IsACE2defaultengine」というシステム設定プロパティを 1 から 0 に変更します。これにより、新規契約関係者が ACE1 に割り当てられることになります。

注: CA Business Service Insight をインストールすると、既存のすべての契約関係者は ACE2 に移動されます。この値に 0 を選択してこの機能をオフにしても、契約関係者は ACE1 に戻りません。その処理は手動で行う必要があります。

ACE 移行サービス

ACE 移行サービスは、ACE1 から ACE2 にメトリックの計算をマイグレートするためにバージョン 8.2 で CA Business Service Insight に追加されたインストール済みのサービスです。

このサービスにより、マイグレーションフェーズで発生するイベントに起因して必要となる再計算に関して、ACE2 にマイグレートされたメトリックに通知が行われます。

マイグレーションには 2 つの手順が必要です。

- ユーザインターフェースから ACE2 にマイグレートするメトリックをマークします。グローバルルールテーブル内の "Assigned_PSL_instance_id" の ID が -1 に変わります。
- 必要に応じて、ACE 移行サービスによって関連するメトリックが処理され、再計算を含めた計算の開始日が設定されます。

注意： マイグレーションの開始時に ACE1 が計算を実行している場合、移行サービスはメトリックを(まだ)マイグレートせず、ACE1 は現在の計算を完了します。これらのプロセスが競合することはありません。

マイグレーションの開始時に ACE1 が計算を処理している場合、移行サービスではなく、ACE1 が開始する再計算日付をマークします。これらのプロセスが競合することはありません。

計算および 8.2 へのアップグレード

デフォルトでは、ACE2 はバージョン 8.2 へのアップグレード後に作成されたすべてのメトリックに割り当てられます。マイグレーション処理は ACE2 が行います。ACE1 エンジン (PSL_Writer) は、ACE2 へのマイグレーションを待機しているが、現在 ACE1 によって監視されているメトリックの再計算日付 (存在する場合) をマークします。

T_global_rules 内のマイグレーション処理中に、以下のフラグが設定されます。

	PSL_instance_id	割り当てられた PSL_instance_id
移動時	任意の PSL_Writer インスタンス	-1
移動後	-1	null

ACE 移行サービスの場合

このセクションでは、考えられる ACE 移行サービスの場合のリストを示します。

条件	結果
1. クリーンインストール：アプリケーションコンポーネントを選択します（[標準] または [カスタム] インストール）。	ACE 移行サービスが自動開始モードで作成されます。
2. クリーンインストール：アプリケーションコンポーネントを選択しません（[標準] または [カスタム] インストール）。	ACE 移行サービスは作成されません。
3. アップグレード：以前のアプリケーションコンポーネントが存在します。	ACE 移行サービスが自動開始モードで作成されます。
4. アップグレード：以前のアプリケーションコンポーネントは存在しません。	ACE 移行サービスは作成されません。

PSLWriter サービスを削除する場合

このセクションでは、「PSL_Writer サービスの削除」の場合のリストを示します。

条件	結果
1. クリーンインストール：[標準] インストールを選択します。	PSL_Writer ファイルがコピーされます。サービスは作成されません。
2. クリーンインストール：[カスタム] インストールを選択します。PSL_Writer サービスをオンにします。	PSL_Writer ファイルがコピーされます。サービスが作成されます。
3. クリーンインストール：[カスタム] インストールを選択します。PSL_Writer サービスをオフにします。	PSL_Writer ファイルがコピーされます。サービスは作成されません。
4. アップグレード：PSL_Writer が存在します。	PSL_Writer ファイルがコピーされます。サービスが作成されます。
5. アップグレード：PSL_Writer は存在しません。	PSL_Writer ファイルがコピーされます。サービスは作成されません。

計算エンジンの概要

以下のリストはエンジンのワークフローを示しています。

- 顧客のイベントがアダプタからシステムに入力されます。
- アダプタ リスナはイベントを収集します。データは正規化され、使用しやすくなっています。アダプタ リスナは **T_RAW_DATA** テーブルへこの正規化されたデータを入力します。
- データを計算する処理は、イベント駆動のシステムに基づいており、**VBS** スクリプトでクライアントによって作成されたビジネス ロジックで実行されます。計算値は、ビジネス ロジックのグローバル変数に保持され、システムで発生する各イベントの更新を含んでいます。そのようなイベントの例には、**Raw** データの入力、期間の開始および終了、リソース構造体の変更、タイムスロットの開始および終了などがあります。各計算された期間の結果は、その後、特化された「結果」機能で定義されます。
- （任意）システムは **Raw** データを計算するために、それを中間データに変換して **T_INTERMEDIATE_DATE** テーブルに保存します。中間データは他のメトリックの計算に使用される場合があります。このように、計算のみが実行されます。同じデータを必要とする他のすべてのメトリックでこの結果が利用され、冗長な計算を実行する必要がなくなります。

契約バージョン間で継続的な計算が行われるということは、サービス レベルの計算のためにビジネス ロジックによって使用されるデータが、自動的に後続の契約バージョンからアクセス可能になることを意味します。この機能によって、**SLA** 管理者は新たな有効期間で新規契約バージョンを作成できます。この機能により、グローバル変数の内容を保持できるようになります。この機能は、計算の続行を可能にし、新規契約バージョンがグローバル変数の以前の値にアクセスできるようにします。

エンジンは、イベントを受け取った順にイベントを処理します。エンジンは、前の計算に戻るためにイベントの処理を元に戻すことはできません。エンジンは現在の状況のみを認識し、受け取った新しいイベントを処理します。すでに計算されているタイムスタンプに変更があった場合、エンジンは再計算を行います。エンジンは、システム設定で定義されているように、計算状態のスナップショットを定期的に保持します。これらのスナップショットにより、契約バージョンの最初から再計算する必要がなくなります。計算は既知の計算状態から開始します。最も単純な開始点はそれが開始した時点です。これらのスナップショットは状態と呼ばれます。エンジンが再計算を行う場合、変更時点に最も近い状態の時点から開始します。

メトリックを再計算する必要がある場合、エンジンは変更の発生時点より前の、最も近い状態を検索し、その状態から計算を開始します。たとえば、変更が 2 週間前に発生し、それより前の最も近い状態が 3 週間前にあったとします。この場合、エンジンは 3 週間前の状態から計算します。そのような状態が見つからない場合、エンジンは契約バージョンの最初から再計算します。

有効期間を変更した新規契約バージョン

SLA の管理者が、新しい有効期間を持つ契約バージョンを作成し、前のバージョンから計算を継続する方法について以下に説明します。

継続的な計算を可能にするための前提条件を以下に示します。

- ユーザが CA Business Service Insight にログインしている。
- 既存のバージョンでメトリックが完全に計算されている。
- `t_system_configurations` で継続的な計算フラグが `true` になっている。

新しい有効期間を持つ新規契約バージョンを作成し、前のバージョンから計算を継続することができます。

以下の手順に従います。

1. CA Business Service Insight にログインします。
2. [サービス レベル管理] - [契約] - [新バージョンの作成] をクリックします。
3. 新しい有効期間を定義します（継続できるようにするには、日付が前のバージョンの日付と連続またはオーバーラップしている必要があります）。
4. [適用] をクリックして、変更を保存します。
5. 新規契約バージョンをコミットします。

エンジンを実行します。エンジンが新しいバージョンを計算すると、前のバージョンで計算されたグローバル変数の値が使用されます。

再計算履歴

再計算履歴機能を使用すると、エンジンのトラブルシューティングを行うことができます。再計算履歴の目的は、エンジンで行われた再計算をモニタし、それらの理由を分析することにあります。

[再計算履歴] ページを開くには、[管理] - [ACE 管理] - [再計算履歴] に移動します。再計算履歴の詳細な検索を行うために、以下を選択できます。

- 開始日フィールド
- 終了日フィールド
- 契約関係者
- 契約

エンジンの再計算履歴コンポーネントは設定可能です。エンジンを設定して、以下を制御することができます。

- 再計算をログに記録するかどうか
- トラッキング期間のみに対する再計算をログに記録するかどうか
- すべての時間単位に対する再計算をログに記録するかどうか

再計算の理由

エンジンに再計算を強制するシステムのイベントのリストを以下に示します。

新規 Raw データ

Raw データおよび中間データが発生した実際の時点より後に、これらのデータが追加される場合があります。例として、あるイベントソースが非アクティブで、データを受信しなかった場合があります。新しいデータが追加されると、エンジンは追加されたイベントのタイムスタンプから再計算します。たとえば、ドルの値が月の最後に入力されたとします。その月の計算全体はその時点のドルの値に基づいていました。エンジンはその月の最初に戻ると、新しい値を使用して再計算します。

修正

データはすでに計算された後でも修正できます。修正すると Raw データが置き換わります。

注: この状況は中間データの場合ではありません。中間データの場合は修正を追加できません。

修正が追加されると、エンジンは変更が発生する前の状態を検索する必要があります。その後エンジンは、その時点からの計算に含まれている新しい修正されたデータでメトリックの再計算を始めます。

たとえば、あるユーザが先週 Raw データとして誤って数字 5 を入力したとします。このユーザが 5 を 3 に置換します。エンジンは 5 が入力された日付から再計算する必要があります。数字 3 が 5 の代わりに使用されます。

注: 修正は、正しくないデータの削除のみで、新しいデータへの置き換えが行われない場合があります。

新規リソース バージョン

以下への登録が行われると、イベントを受け取ります。

- 特定のリソース
- リソースのグループ
- サービスと関連付けられたリソース
- 契約関係者

リソースが変更されると、エンジンはリソースが変更された時点から再計算します。この再計算の例として、リソース グループからのリソースを割り当てまたは削除する場合、あるいはリソースのカスタム属性の値を変更する場合があります。

サーバのリストでそれらが継続中であることを示すステータスが表示されている場合に、サーバ3がメンテナンスのために外されたとします。サーバ3はシステム通知なしで削除されました。ユーザは、サーバ3がメンテナンス期間中に存在しなかったことをシステムに通知します。エンジンはサーバ3が削除された日付に戻り、そこから再計算します。

リソースのカスタム属性の変更

リソースのカスタム属性が変更されると、エンジンはそのリソースに関連付けられているメトリックをすべて再計算します。メトリックは、カスタム属性が変更された日付から再計算されます。

たとえば、サーバがニューヨーク、シカゴ、およびロサンジェルスに配置されているシナリオを考えてみます。ユーザは、シカゴのサーバはニューヨークのグループに含まれると判断しています。その後、管理者がシカゴのサーバは実際にはロサンジェルスグループの一部であると判断し、シカゴのサーバのステータスを変更しました。この場合、エンジンは再計算を行う必要があります。

例外の新規追加/有効化/無効化

例外は定義された期間に対して作成できます。たとえば、通常の勤務時間内として定義された期間があるとします。しかし、それには停電による例外があります。この例外により、通常の勤務時間から指定された間隔が削除されます。イベントはこの時点でタイムスロット外と見なされますが、引き続き処理されます。一度この時間が通常のルーチンと区別されると、ビジネスロジックスクリプトにタイムスロット外の動作を定義できます。ただし、ユーザは、例外の期間内のエンジンの動作を定義することができません。この動作は、標準のタイムスロット外の動作から変更できません。例外は実際の期間の前または後に定義できます。エンジンによってすでに計算されている時間枠に例外が追加されると、例外を考慮して再計算されます。

たとえば、1週間前に停電が通知された場合があります。システムは、停電を考慮に入れずに、現在の時間までの計算を行いました。この場合再計算を必要とします。

ビジネスロジックモジュールのバージョン

ユーザによって定義されたビジネスロジックは、個々のメトリックに作成できます。また、ロジックが主要なもので再利用する必要がある場合、ビジネスロジックモジュールに配置できます。このように配置することで、ユーザが一度作成したロジックを、複数のメトリックで使用できます。ただし、ロジックの誤りを修正するようモジュールが変更されると、変更されたモジュールにリンクしているすべてのメトリックが変更されます。これらのメトリックは、この修正を反映するために再計算する必要があります。

たとえば、複数のクライアントがあり、それらのすべてがヘルプデスクメトリックを必要とすることがあります。この場合、ヘルプデスクロジックをビジネスロジックモジュールに配置できます。

新規中間データイベント

イベント再利用機能を使用すると、ほかのメトリックの計算結果を入力として使用するメトリックを作成できます。このタイプのデータは中間データと呼ばれます。このデータは、構造が **Raw** データと類似するイベントをメトリックに送信させることによって作成します。その後、受信したメトリックは、この送信したメトリックに登録され、メトリックが **Raw** データ イベントを受信する場合と同じ方法で送信されたイベントを受信します。送信したメトリックを再計算する場合、前に送信したイベントを削除し、再計算が必要な時間枠を再計算する必要があります。つまり、前に送信した中間データが最新ではなくなったことを意味します。このデータを受信するよう登録するメトリックも、新しいデータを反映するために再計算する必要があります。

新規契約バージョン

契約バージョンを作成すると、そこに含まれるメトリックの一部またはすべてが契約バージョンの最初から再計算されます。この再計算は、前のバージョンから変更があったメトリックでのみ実行されます。契約バージョンを作成し、次に直接コミットすれば、再計算を受信しません。メトリックに変更が含まれるため、再計算は発生しません。

再計算が発生しないケースを以下に示します。

- 前のバージョンと同一の日付のバージョンを作成し、何も変更していない場合。この場合、再計算は行われません。
- 前のバージョンと同一の日付のバージョンを作成し、メトリックの一部を変更した場合。この場合、契約バージョンの最初から、変更されたメトリックが再計算されます。
- 新しいバージョンが別の日付で作成された場合。この場合、契約バージョンの最初から、すべてのメトリックが再計算されます。

新規契約バージョンは、再計算ではなく計算と見なされるため、再計算履歴には表示されません。

たとえば、ABC 社と 3 年間の契約があるとします。この契約を 1 年間延長します。この変更により、新規契約バージョンが作成されることになります。ACE1 は 2005 年 1 月 1 日からメトリックを再計算します。

100 のメトリックのある契約がある場合、バージョンを作成し、それらのメトリックのうちの 1 つのメトリックのパラメータを変更すれば、変更は発生しません。他のメトリックでは再計算しません。

注: 変更がかなり前に行われている場合は、再計算が長時間化する原因となります。この再計算には長時間を要しますが、それは影響を受けたメトリックが変更の時点から再計算する必要があるためです。

イベント固有性

イベント固有性では、アダプタ機能性が使用され、**Raw** データ テーブルに入力されているイベントが新しい同一のイベントに置き換えられます。ユーザは、同一のエントリまたはイベントを認識するために使用する、アダプタ内のイベントのフィールド（キー フィールド）を定義します。キーによって、エントリの一意性が構成されます。キー自体は **ID** ではありません（キー フィールドが **1** つのみの場合を除く）。

新しいイベントが作成され、キー フィールドに従うと前のイベントと同一と見なされる場合、イベントのタイムスタンプが変更されます。この変更が発生した場合、**ACE1** は以下の 2 つのうちの早いほうから再計算します。

- 新しいイベントのタイムスタンプ（新しいタイムスタンプが、元のタイムスタンプより前の時間の場合）。
- 古いイベントのタイムスタンプ（新しいタイムスタンプが、元のタイムスタンプより後の時間の場合）。

インスタンス管理

インスタンス管理を使用すると、システム管理者は、さまざまな **ACE** インスタンス間および 2 つの **ACE** エンジン間の計算の割り当てを管理できます。**ACE2** に何かを割り当てることは、特定の **ACE1** インスタンスにそれを割り当てることと同じです。

管理者が **ACE1** インスタンスへメトリックを割り当てる方法には、以下の 2 通りがあります。

- **ACE1** インスタンスへの契約関係者の割り当て
- 特定の **ACE1** インスタンスへの特定のメトリックの割り当て

ACE1 インスタンスへメトリックを割り当てる前に、以下の条件を満たします。

- ユーザが **CA Business Service Insight** にログインしている。
- エンジン インスタンス管理ページの編集がユーザ ロールにより許可されている。
- 複数の **ACE1** インスタンスがインストールされている。

複数の現在のステータス エンジン インスタンス

デフォルトでは、CA Business Service Insight は単一の現在のステータスエンジン インスタンスから構成されます。エンジン インスタンスが 1 つであるということは、ダッシュボード メトリック 計算のすべてを単一のエンジンで実行することを意味します。ダッシュボードのパフォーマンスが低い場合、作業負荷を分散するために他の現在のステータス エンジン インスタンスを追加できます。これらのインスタンスを追加すると、パフォーマンスが向上します。ユーザが他の現在のステータス エンジンを追加すると、システムが利用する CPU およびコンピュータがより多くなります。現在のステータス エンジンの追加によって、同時に計算されるメトリック数が増えるため、パフォーマンスが向上します。

ACE1 インスタンスへの契約関係者の割り当て

このセクションでは、ACE1 インスタンスに契約関係者を割り当てる方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. CA Business Service Insight にログインします。
2. [管理] - [ACE 管理] - [ACE インスタンス管理] をクリックします。
[ACE インスタンス管理] ページが表示されます。
3. 特定の契約関係者を特定のインスタンスに割り当てるには、契約関係者名の左側をクリックします。
[契約関係者へ ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウが表示されます。
注: 契約関係者に何も割り当てられておらず、ACE1 がデフォルト エンジンである場合、契約関係者はインスタンス 0 で計算されます。
4. [ACE インスタンス] フィールドのドロップダウン メニューからインスタンスを選択します。

未定義のインスタンスへの契約関係者の割り当て

このセクションでは、現在存在しないインスタンスに契約関係者を割り当てる方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. ドロップダウンメニューで別のアイテムをクリックします。
2. テキスト フィールドをクリックします。
3. 作成するインスタンス番号を入力します。
4. チェック ボックスをオンにして、契約関係者のすべてのメトリックを選択したインスタンスに割り当てます。
5. チェック ボックスをオフにして、その契約関係者に追加された新しいメトリックのみを契約関係者のインスタンスに割り当てます。
6. [保存] をクリックして、選択した ACE1 インスタンスに契約関係者を割り当てます。

インスタンスへの複数の契約関係者の割り当て

複数の契約関係者をインスタンスに割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. [ACE インスタンス管理] ページで、対象とする[契約関係者]のチェック ボックスをオンにします。
2. [ACE インスタンスの設定] ボタンをクリックし、単一のインスタンスに複数の契約関係者を割り当てます。

ACE1 インスタンスへのメトリックの割り当て

ACE1 インスタンスにメトリックを割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. CA Business Service Insight にログインします。
2. [管理] - [ACE 管理] - [ACE インスタンス管理] をクリックします。[ACE インスタンス管理] ページが表示されます。
3. [契約関係者] の名前をクリックします。
[メトリック別の ACE インスタンス] ウィンドウが表示され、選択された契約関係者のすべてのメトリックのリストが表示されます。
4. [契約関係者] の名前をクリックします。
[メトリック別の ACE インスタンス] ウィンドウが表示され、選択された契約関係者のすべてのグローバルメトリックのリストが表示されます。メトリックのリストは契約別にグループ化されます。このグループ化は動的に行われ、メイン ウィンドウのグループによって決まります。すべてのメトリックの割り当ては、デフォルトで PSL への契約関係者割り当てテーブルで定義されているのと同じです。

各メトリックの ACE1 インスタンスの割り当てを変更できます。

以下の手順に従います。

1. [メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ボタンをダブルクリックします。[メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウが表示されます。
2. メトリックのデフォルト インスタンス割り当てを変更すると、その隣に青いアイコンが表示されます。このアイコンは、メトリック定義が契約関係者定義と異なることを表します。
3. [メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウを閉じると、青いアイコンが [ACE インスタンス管理] で [契約関係者] の隣に表示されます。このアイコンは、メトリックのデフォルト定義が変更されていることを表します。
4. [保存] をダブルクリックして、ACE インスタンスへの契約関係者の割り当てを保存します。
5. [閉じる] をダブルクリックします。

各メトリックの ACE1 インスタンスの割り当ての変更

各メトリックの ACE1 インスタンスの割り当てを変更できます。

以下の手順に従います。

1. [契約関係者] の名前をクリックします。
2. [メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウが表示されます。メトリックのデフォルト インスタンス割り当てを変更すると、その割り当ての隣に青いアイコンが表示されます。アイコンは、メトリック定義が契約関係者定義と異なることを表します。[メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウを閉じると、同じ青いアイコンが契約関係者の隣に表示されます。このアイコンは、メトリックのデフォルト定義が変更されていることを表します。
3. [保存] をクリックして、ACE1 インスタンスへの契約関係者の割り当てを保存します。
4. [閉じる] をクリックします。

ACE1 インスタンスへのメトリックの割り当て - 一括管理

一括管理でメトリックを ACE1 インスタンスに割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. CA Business Service Insight にログインします。
2. [管理] - [ACE 管理] - [ACE インスタンス管理] をクリックします。[ACE インスタンス管理] ページが表示されます。
3. [契約関係者] の名前をクリックします。[メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ウィンドウが開き、選択された契約関係者のすべてのメトリックのリストが表示されます。メトリックのリストは契約別にグループ化されます。
4. 対象とするメトリックのチェック ボックスをオンにします。
5. [ACE インスタンスの設定] ボタンをクリックし、それらのインスタンスを同時に更新します。
6. [ACE インスタンス管理] ページで、[保存] をクリックして、データベースに変更を保存します。

ACE1 インスタンスへの契約関係者の割り当て - 一括管理

一括管理で契約関係者を ACE1 インスタンスに割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. CA Business Service Insight にログインします。
2. [管理] - [ACE 管理] - [ACE インスタンス管理] をクリックします。[ACE インスタンス管理] ページが表示されます。
3. 対象とする [契約関係者] のチェック ボックスをオンにします。
4. [ACE インスタンスの設定] ボタンをクリックして、それらの ACE1 インスタンスを同時に更新します。
5. [保存] をクリックして、データベースに変更を保存します。

ACE1 および ACE2 間のマイグレーション

契約関係者または個別のメトリックの割り当ては、インスタンス管理のユーザ インターフェースを使用して 2 つの方向に処理されます。これらのダイアログ ボックスには、[管理] - [ACE 管理] - [ACE インスタンス管理] からアクセスできます。以下のボタンがある [メトリックに ACE インスタンスを割り当て] ダイアログ ボックスが表示されます。

- ACE1 ～ ACE2 : このパスは、ACE1 によってすでに実行された計算をすべて考慮に入れて、その時点から続行します。
- ACE2 ～ ACE1 : この割り当ては、ACE2 エンジンで問題があった場合にのみ使用されます。この割り当てにより、影響を受けるメトリックで完全な再計算が行われます。

第 4 章: ACE1 (Aggregation and Correlation Engine)

ACE1 (Aggregation and Correlation Engine) は、CA Business Service Insight の 2 つのエンジンのうちの 1 つであり、事前定義済みのメトリックを収集、正規化、および計算します。もう 1 つのエンジンはデフォルト エンジンの ACE2 です。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ACE1 サイクル](#) (P. 70)

[ACE1 での計算順序](#) (P. 71)

[診断ツールの実行](#) (P. 72)

[ACE インスタンスの追加](#) (P. 80)

ACE1 サイクル

ACE1 はサイクルで動作します。各サイクルで、ACE1 は割り当てられているメトリックをすべて計算します。ACE1 サイクルは以下の手順から構成されます。

アーカイブ

GUI でアーカイブ済みとしてマークされた契約メトリックをアーカイブします。それらのメトリックのみがアーカイブされます。

ページ

ユーザが契約のページをリクエストした場合、その契約のメトリックの計算時に ACE1 によって書き込まれたデータがすべてページされます。

データページ

計算日付のロックを操作し、データを削除します（現在は Raw データのみ）。

データベースを待機

データベースに接続されていることを検証します。

リセット

新しいサイクルの準備。

インスタンス管理

インスタンスの割り当てアクション进行处理します。

サイクルクエリの開始

デバッグサブサイクル

（アクティブではありません）。

古いページ

契約の完全なページ进行处理します。

新しいページ

データページおよび計算されたデータのロックリクエスト进行处理します。

アーカイブ

アーカイブアクション进行处理します。

属性キャッシュ 1 のクリア

カスタム属性キャッシュをクリアします。

インフラストラクチャ処理

リソース構造体の変更を処理します。

ルールリストの作成

最も早い再計算の日付を検索します。

属性キャッシュ 2 のクリア

カスタム属性キャッシュをクリアします。

計算サイクル

指定されたサービス レベルの実際の計算。

アイドル サイクル

サイクルの長さが経過するのを待機します（そのように設定されている場合）。

ACE1 での計算順序

ユーザは、ACE1 がサイクル中にエージェントを計算する順序を設定できます。ただし、ACE1 の作業順序には以下の制限があります。計算の順序はインスタンス固有です。複数の ACE インスタンスがある場合、それぞれに独自の順序があり、それらの間に相互作用はありません。

注: イベント再利用チェーンの一部であるメトリックは、単一の ACE1 インスタンスに属する必要があります。そうでない場合、パフォーマンスが大幅に低下します。

診断ツールの実行

CA Business Service Insight では、いくつかの診断ツールを実行して、環境に潜在的に存在する問題を識別できます。これらのツールを実行することで、事前に測定を行い、エンジン処理中のエラーを防ぎます。さらに、CA Business Service Insight はエンジン処理の分析に役立つレポートを提供します。

診断ツールでは以下のことが要求されます。

- 自動実行および分析
- (スケジュールされた) 事前の実行
- 包括的で拡張可能な手法

診断テストのタイプには以下のものがあります。

- メモリ関連
- データベース関連
- 機能性関連
- 統計/情報
- システム完全性

現在利用可能な診断テストは以下のとおりです。

T-Log および T-rules-time-units のエラー

次の内容をチェックします。

- ACE1 に関連するログのエラー
- T_rules_time_units の last_rt_error フィールドのエージェントのエラー

将来有効になる契約

将来の日付に開始される有効なバージョンを持つ契約をシステム内でチェックします。

大きな状態

システム内で不自然に大きい状態をチェックします。

権限とシノニム

ACE1 が必要とするすべてのテーブルに、権限とシノニムが適切に定義されていることを確認します。

順序の検証

すべてのテーブルがそれらの順序に従って同期されることを確認します。

ステータスの検証

T-rules-time-units 内の各種エージェントのステータスが、T_rules に書き込まれている内容と一致していることを確認します。

システム設定の検証

システム設定の特定のキー値が、ACE1 の仕様に従って設定されていることを確認します。

テーブルスペース

システムのテーブルスペースの状態を検証し、問題があるテーブルスペースを見つけます。

t-rules-time-units の不足

過去 2 週間に計算が行われず、計算が不足しているエージェントがないことを確認します。

このセクションでは、診断ツールを実行する方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. <インストールディレクトリ>\bin に移動します。
2. DiagnosticsConsule.exe をダブルクリックします。
GUI ウィンドウが開き、ログが表示されます。
3. SYS のパスワードを入力し、[実行] をクリックします。
テストの実行が開始され、結果が画面に表示されます。
4. ログ ファイルを開き、結果を確認します。

ACE1 通信モジュール/コンソール

ACE1 は、サービス (Oblicore_PslWriter) として実行されます。ACE1 には任意の種類フィードバックを取得できるインターフェースがありません。一連の複雑なエンジンプロセスの理解に役立つ 2 つのシステムが追加されました。

コンソール モードでのエンジンの実行

コンソール モードでエンジンを実行する場合、動的な画面が表示されます。この画面は、エンジンの現在の計算ステータスの詳細を示します。このコンソールを使用するには、サービスを停止してからコンソール モードで再度実行します。このアクションによってエンジンの処理に強制的に介入されるため、場合によってはパフォーマンスが低下することがあります。

このセクションでは、コンソール モードでエンジンを実行する方法について説明します。

以下の手順に従います。

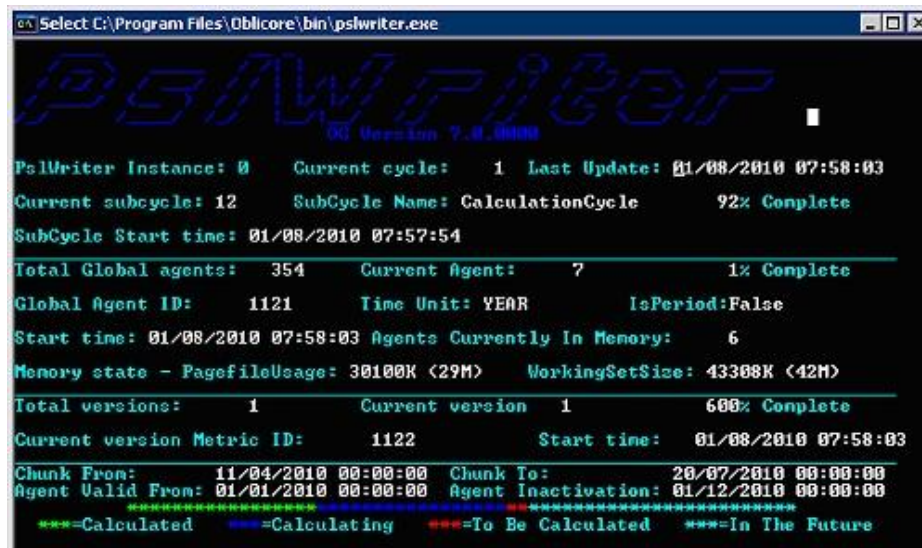
1. PslWriter サービスまたは PslWriterN を停止します。n は実行するインスタンスの数で、それが個別のサーバ上で実行されている場合も含まれます。同じインスタンスを同時に複数回実行することは許可されていません。
2. コマンド ウィンドウを開きます。コマンド ウィンドウを開くには、[スタート] - [ファイル名を指定して実行...] に移動し、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。

3. 以下のコマンドを入力します。

```
PslWriter -d [-x<instance ID>]
```

注: インスタンス ID はオプションです。指定しない場合は、インスタンス 0 が実行されます。コマンドの一例は次のとおりです。

```
PslWriter -d -x12
```



```
Select C:\Program Files\Oblicore\bin\pslwriter.exe

PslWriter
Version 7.0.0000

PslWriter Instance: 0    Current cycle: 1    Last Update: 01/08/2010 07:58:03
Current subcycle: 12    SubCycle Name: CalculationCycle    92% Complete
SubCycle Start time: 01/08/2010 07:57:54

Total Global agents: 354    Current Agent: 7    1% Complete
Global Agent ID: 1121    Time Unit: YEAR    IsPeriod:False
Start time: 01/08/2010 07:58:03    Agents Currently In Memory: 6
Memory state - PagefileUsage: 30100K <29M>    WorkingSetSize: 43308K <42M>

Total versions: 1    Current version 1    600% Complete
Current version Metric ID: 1122    Start time: 01/08/2010 07:58:03

Chunk From: 11/04/2010 00:00:00    Chunk To: 20/07/2010 00:00:00
Agent Valid From: 01/01/2010 00:00:00    Agent Inactivation: 01/12/2010 00:00:00

***=Calculated    ***=Calculating    ***=To Be Calculated    ***=In The Future
```

直接通信の有効化

アクティブになっているサービスと直接通信できます。この通信により、サービス アクティビティに干渉せずに、サービス ステータスの実行中の更新状況を取得できます。サービスとの通信は **Telnet** を使用して行われます。

このセクションでは、直通通信を有効にする方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. 以下の DML でエンジン用のベース通信ポートを定義します。

```
INSERT INTO T_SYSTEM_CONFIGURATIONS
(SYS_CONFIG_ID,
 SYS_CONFIG_NAME,
 SYS_CONFIG_VALUE,
 SYS_CONFIG_PARENT)
VALUES
(SEQ_SLA_SYS_CONFIG.NEXTVAL,
 'pslcommunicationport',
 3000,
 71)
```

注: この手順は 1 回のみ実行します。

上記の DML に示された数値 **3000** はベース通信ポートです。すなわち、インスタンス **0** はこのポートを使用します。ほかのすべてのインスタンスは、この数値とインスタンス ID を足した数値をポートとして使用します。たとえばこの例を使用した場合、インスタンス **11** にはポート **3011** が割り当てられます。言うまでもなく、ベースポートを選択する場合は、エンジンのすべてのインスタンスに空いているポートが割り当てられるようにする必要があります。ポートがすでに使用されている場合、関連するインスタンスの通信が無効になります。サービスがすでに開始されている場合、このスクリプトを実行するとデータベースが更新されますが、サービスが更新を検索するのは 2 分間隔です。そのため、通信モジュールがアクティブになるまでに、長い時間がかかる場合があります。

2. コマンドウィンドウを開いて、以下のコマンドを入力します。

Telnet <サーバ名> <ポート ID>

サーバ名は、コンピュータの実際の名前、コンピュータの IP、または **localhost** です。エンジンが実行されるアプリケーション サーバから通信が開始された場合は、この命名規則は真です。

たとえば **Telnet localhost 3011** のようになります。

通信が開始されると、計算ステータス画面が表示され、10 秒のタイムアウト遅延がアクティブになります。たとえば、最後にリクエストされたページが 10 秒ごとに再度取得されます。デフォルトのページは計算ステータス ページで、別のページが選択されるまではそれが表示されます。

最初に接続すると、**Telnet** 画面が表示されます。

キーボードで目的の番号を押すと、対応するページが表示されます。

最初の行には、接続している **PsiWriter** のインスタンスが表示されます。

以下の表に、利用可能なオプションの文字または数字、およびその説明を示します。各文字/数字のより詳細な説明は、その後にあります。

利用可能なオプション

文字/数字	説明
0	利用可能なオプションのリスト
Q	(Quit) 通信を終了します
1	計算ステータス画面
2	計算の順序
3	エージェントの計算のトラッキング
9	プロセス メモリのフラグメンテーション状態

利用可能なオプション(0)のリスト

利用可能なオプション(0)のリスト

これは、利用可能なオプションのリストを返します。

終了(Q)

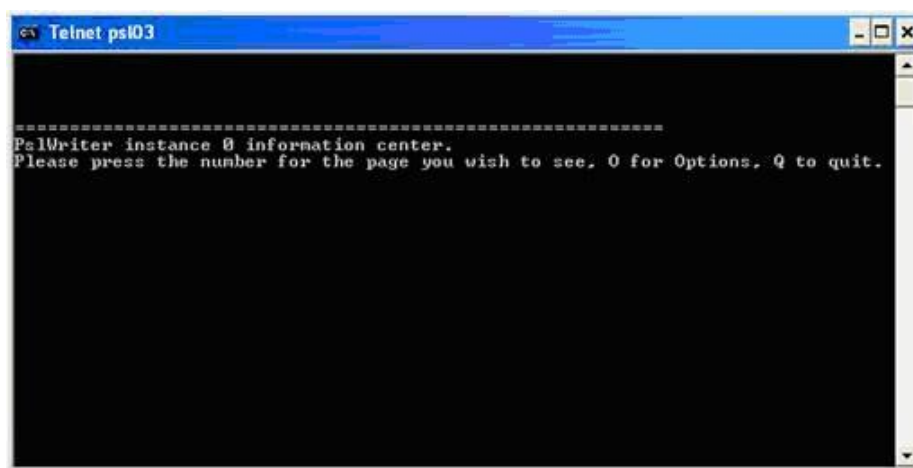
終了(Q)

通信を終了する場合に使用します。

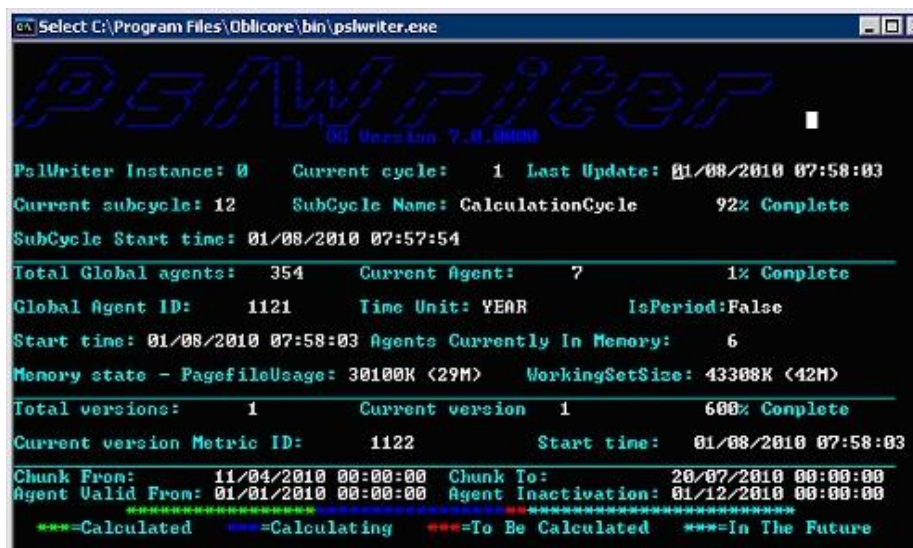
計算ステータス画面(1)

計算ステータス画面(1)

計算ステータス画面には、操作された時点での計算プロセスのステータスが表示されます。



この画面は、コンソールモードイメージに似ており、同じ情報がプレーンテキストにフォーマットされて表示されます。計算ステータス画面に表示される情報は、インスタンスをコンソールモードで実行したときに表示される情報と同じです。



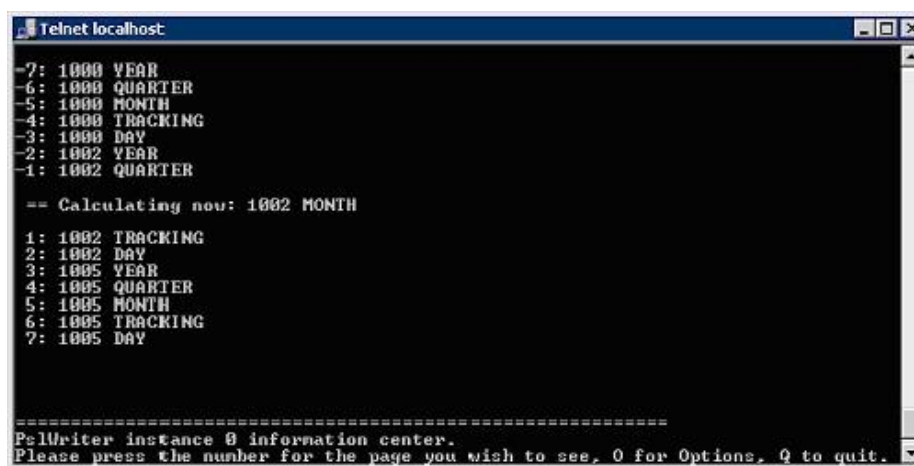
計算の順序(2)

計算の順序(2)

このページは、現在に近い計算の順序を返します。

- 最近計算されたエージェント（直近に計算された 50 のグローバル エージェント）。
- 将来の計算計画（次に計算される 50 のグローバル エージェント）。

この画面は、通信モジュール（オプション 2）の現在の計算リストの例です。



```
Telnet localhost
-7: 1000 YEAR
-6: 1000 QUARTER
-5: 1000 MONTH
-4: 1000 TRACKING
-3: 1000 DAY
-2: 1002 YEAR
-1: 1002 QUARTER

== Calculating now: 1002 MONTH

1: 1002 TRACKING
2: 1002 DAY
3: 1005 YEAR
4: 1005 QUARTER
5: 1005 MONTH
6: 1005 TRACKING
7: 1005 DAY

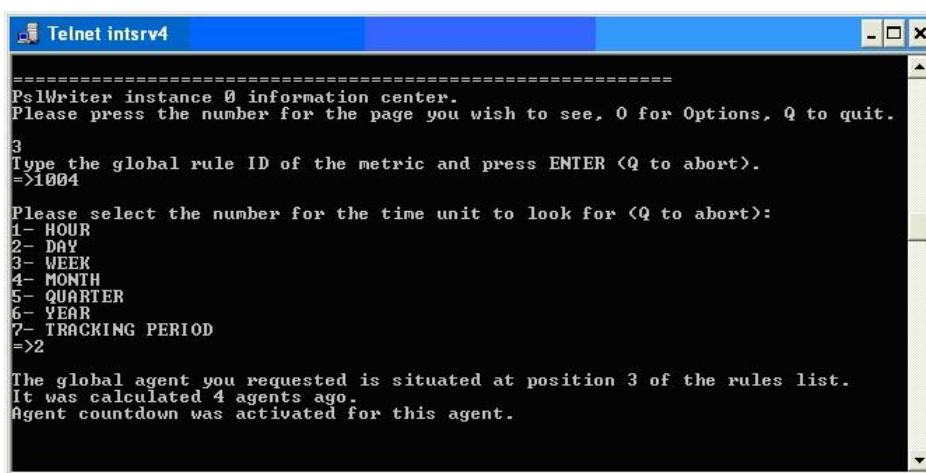
=====
PsiWriter instance 0 information center.
Please press the number for the page you wish to see, 0 for Options, Q to quit.
```

エージェントの計算のトラッキング

エージェントの計算のトラッキング

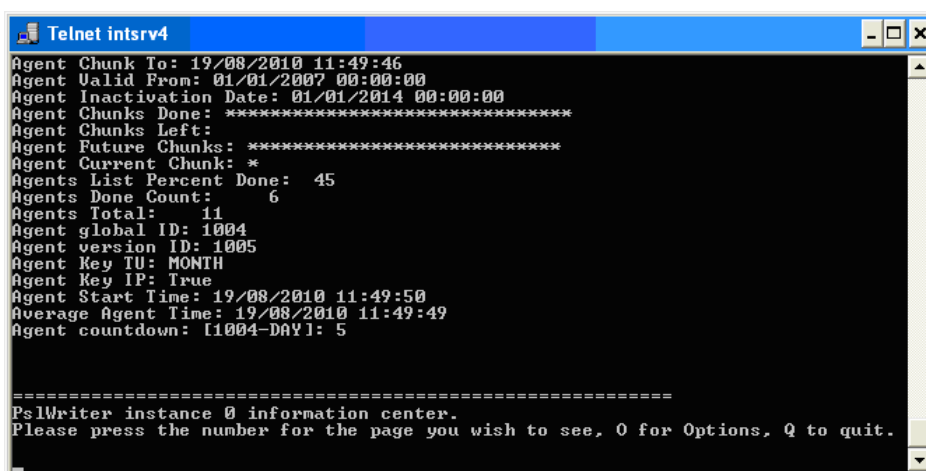
エージェントの計算のトラッキング画面はインタラクティブなページです。この画面はグローバルルール ID、時間単位を受け取り、説明されるエージェントが計算されるタイミングを示します。

ユーザがエージェントを選択した後、コンソールモードおよび計算ステータス リクエスト ページにエージェント カウントダウンが表示されます。このカウントダウンは、要求されたエージェントが計算される時点までの経過時間を示します。以下の例では、ルール ID が 1004 で粒度が DAY というリクエストが行われています。



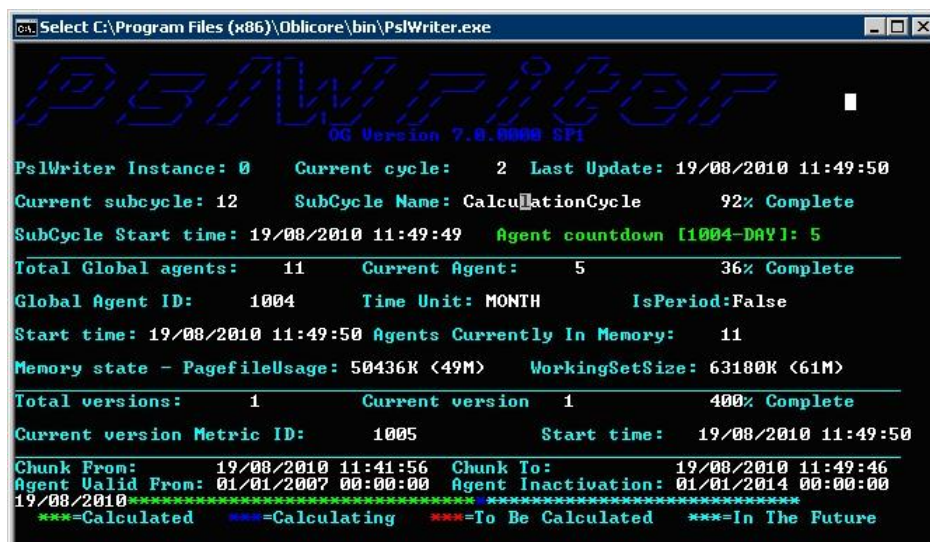
```
Telnet intsrvt
=====
PslWriter instance 0 information center.
Please press the number for the page you wish to see, 0 for Options, Q to quit.
3
Type the global rule ID of the metric and press ENTER (Q to abort).
=>1004
Please select the number for the time unit to look for (Q to abort):
1- HOUR
2- DAY
3- WEEK
4- MONTH
5- QUARTER
6- YEAR
7- TRACKING PERIOD
->2
The global agent you requested is situated at position 3 of the rules list.
It was calculated 4 agents ago.
Agent countdown was activated for this agent.
```

この画面は、アクティビティ ビュー（オプション 1）でカウントダウン オプションがオンにされている場合の例です。



```
Telnet intsrvt
Agent Chunk To: 19/08/2010 11:49:46
Agent Valid From: 01/01/2007 00:00:00
Agent Inactivation Date: 01/01/2014 00:00:00
Agent Chunks Done: *****
Agent Chunks Left:
Agent Future Chunks: *****
Agent Current Chunk: *
Agents List Percent Done: 45
Agents Done Count: 6
Agents Total: 11
Agent global ID: 1004
Agent version ID: 1005
Agent Key TU: MONTH
Agent Key IP: True
Agent Start Time: 19/08/2010 11:49:50
Average Agent Time: 19/08/2010 11:49:49
Agent countdown: [1004-DAY]: 5
=====
PslWriter instance 0 information center.
Please press the number for the page you wish to see, 0 for Options, Q to quit.
```

この画面は、コンソールでカウントダウン オプションがオンにされている場合の例です。



```

Select C:\Program Files (x86)\Oblicore\bin\PslWriter.exe

PslWriter
OG Version 7.0.0000 SFI

PslWriter Instance: 0    Current cycle: 2    Last Update: 19/08/2010 11:49:50
Current subcycle: 12    SubCycle Name: CalculationCycle    92% Complete
SubCycle Start time: 19/08/2010 11:49:49    Agent countdown [1004-DAY]: 5

Total Global agents: 11    Current Agent: 5    36% Complete
Global Agent ID: 1004    Time Unit: MONTH    IsPeriod:False
Start time: 19/08/2010 11:49:50    Agents Currently In Memory: 11
Memory state - PagefileUsage: 50436K <49M>    WorkingSetSize: 63180K <61M>

Total versions: 1    Current version 1    400% Complete
Current version Metric ID: 1005    Start time: 19/08/2010 11:49:50

Chunk From: 19/08/2010 11:41:56    Chunk To: 19/08/2010 11:49:46
Agent Valid From: 01/01/2007 00:00:00    Agent Inactivation: 01/01/2014 00:00:00
19/08/2010 *****
***=Calculated    ***=Calculating    ***=To Be Calculated    ***=In The Future

```

フラグメンテーション状態(9)

フラグメンテーション状態(9)

プロセス メモリのフラグメンテーション状態です。この状態は主として CA サポート ツールであり、通常のユーザには無関係です。

ACE インスタンスの追加

現在のステータス エンジン の追加のインスタンスを、同じサーバまたは別のサーバにインストールできます。

同じサーバへの追加インスタンスのインストール

追加のインスタンスを同じサーバにインストールできます。

以下の手順に従います。

1. コマンドウィンドウで bin ディレクトリから以下のコマンドを実行します。
(**<Oblicore ディレクトリ>%bin**) :

CurrentStatusEngine.exe

注: -xN パラメータを省略すると、新しいインスタンスの ID は 0 になります。同じ ID の 2 つのインスタンスをインストールすることになります (デフォルトの ACE インスタンスの ID は 0 です)。2 つのインスタンスを同じ ID でインストールしないでください。

2. [サービス] ウィンドウのリストを表示します。
3. 新しい ACE インスタンスが表示名 **Oblicore-PsiWriterN** で正常にインストールされたことを確認します。
4. サービスのプロパティを編集し、Oblicore サービス アカウントにユーザを設定します。

新しいサーバへの追加インスタンスのインストール

追加の ACE1 インスタンスを新しいサーバにインストールできます。

以下の手順に従います。

1. 新しいサーバで、CA Business Service Insight のインストールを実行します。

CA Business Service Insight のインストール ウィザードで、PslWriter サービスのみを選択します。

これにより、コンピュータに必要なすべてのファイルがコピーされ、デフォルトのサービス (ID = 0) が作成されます。

2. コマンド ウィンドウで bin ディレクトリ (<Oblicore ディレクトリ>%bin) から以下のコマンドを実行します。

PslWriter.exe -i -xN (ここで N は新しいインスタンス ID です)

注: -xN パラメータを省略すると、新しいインスタンスの ID は 0 になります。同じ ID の 2 つのインスタンスをインストールすることになります。デフォルト ACE インスタンスの ID は 0 です。2 つのインスタンスを同じ ID でインストールしないでください。

3. [サービス] ウィンドウのリストを表示します。
4. 新しい ACE インスタンスが表示名 Oblicore-PslWriterN で正常にインストールされたことを確認します。
5. サービスのプロパティを編集し、Oblicore サービス アカウントにユーザを設定します。

ACE インスタンスのアンインストール

ACE インスタンスをアンインストールできます。

以下の手順に従います。

1. コマンド ウィンドウで bin ディレクトリ (<Oblicore ディレクトリ>%bin) から以下のコマンドを実行します。

PslWriter.exe -u -xN (ここで N はインスタンス ID です)

2. [サービス] ウィンドウのリストに移動し、サービスがリストから削除されたことを確認することにより、ACE インスタンスが正常にアンインストールされたことを確認します。

注: この手順は、サービスのリストからインスタンスを削除するだけです。サーバからインスタンスをすべて削除した後に、関連するファイルを削除するには、CA Business Service Insight アンインストールユーティリティを実行します。インスタンスをアンインストールしても、インスタンスの設定パラメータはデータベースから削除されません。

ACE インスタンスのアンインストール

現在のステータス エンジン インスタンスをアンインストールできます。

コマンド ウィンドウで `bin` ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

(`<Oblicoreディレクトリ>\bin`) :
`CurrentStatusEngine.exe N` (ここで `N` はインスタンス ID です)

追加の ACE インスタンスの実行

ACE インスタンスは、通常モードまたはデバッグ モードで実行できます。

次の手順に従ってください:

1. サービス マネージャから、ACE インスタンスを開始します。
2. デバッグ モードで追加の ACE インスタンスを実行するには、コマンド ウィンドウを開いて以下のコマンドを実行します。

`PsiWriter.exe -d -n` (ここで `n` はインスタンス番号です)

注: 同じインスタンス ID のインスタンスは、一度に 1 つのみ実行します。

複数の ACE インスタンス

デフォルトでは、CA Business Service Insight は単一の ACE インスタンスから構成されます。単一のエンジンはすべての計算を実行します。作業負荷を分散してパフォーマンスを改善するために、追加の ACE インスタンスを追加できます。

注: パフォーマンスの問題がデータベース オーバロードによる場合、複数インスタンスを追加してもパフォーマンスは向上しません。すべてのインスタンスは同じデータベースで動作します。

追加の ACE インスタンスは、既存の ACE インスタンスと同じコンピュータ、または新しいコンピュータへ追加できます。コンピュータ上のインスタンス数が CPU の数を超えないようにすることを推奨します。ただし、同じマシン上でほかに重いサービスが実行されている場合は、インスタンスの数を CPU の数より 1 つ少なくすることをお勧めします。

複数の ACE インスタンスの設定

すべての ACE 設定パラメータは、デフォルトのインスタンス（インスタンス 0）に設定されます。デフォルトでは、すべての追加の ACE インスタンスは、デフォルトのインスタンスに設定されたパラメータを使用します。追加の ACE インスタンスがデフォルト インスタンスとは異なるように設定できます。それには、T_SYSTEM_CONFIGURATIONS テーブルへの設定パラメータを手動で追加します。

T_SYSTEM_CONFIGURATIONS テーブルでは、設定パラメータはツリー構造で配置されます。このツリーの「pslwriter」キーの下には、以下のものがあります。

- ACE に関連するすべてのパラメータ
- ACE の 0 以外のすべてのインスタンスのキー
 - 0 以外のすべてのインスタンスには、テーブル内の「pslwriter」キーの下に特殊なキーがあります。キーの名前は「pslwriterX」です。ここで X はインスタンス ID です。ACE インスタンスはこのキーを最初の実行時に追加します。

特定のインスタンス用のパラメータを設定できます。

次の手順に従ってください:

1. T_SYSTEM_CONFIGURATIONS テーブルの「pslwriter」キーの配下の「pslwriterX」キーの下に、パラメータを追加します。
2. パラメータの値を設定します。

たとえば、すべてのインスタンスのサイクルの長さは 1 時間です。

インスタンス 5 を 2 時間のサイクル長に設定することができます。pslwriter キーの下で、サイクル長パラメータを作成して 7200 に設定します。

3. T_SYSTEM_CONFIGURATIONS に存在する、エンジンに関連するすべてのインスタンスのキーを表示するには、以下のクエリを実行します。

```
select t.sys_config_id, t.sys_config_name
from t_system_configurations t
where t.sys_config_parent=71
and t.sys_config_name like 'pslwriter%'
```

4. pslwriter5 が存在することを確認します。pslwriter5 が存在しない場合、このインスタンスを実行したことがないと考えられます。このインスタンスを数秒間実行して、テーブルに必要なキーを追加します。

5. 上記のクエリの結果からインスタンス 5 の SYS_CONFIG_ID を取得し、以下のクエリを実行して、インスタンス 5 に現在存在する設定パラメータを表示します。

```
select t.sys_config_id, t.sys_config_name, t.sys_config_value
from t_system_configurations t
where t.sys_config_parent=<インスタンス 5 の SYS_CONFIG_ID>
```

6. パラメータ `cyclelength` が存在する場合は、以下のクエリで値を設定します。

```
update t_system_configurations t
set t.sys_config_value='7200'
where t.sys_config_id=<パラメータの SYS_CONFIG_ID>
```
7. パラメータ `cyclelength` が存在しない場合は、以下のクエリでパラメータを追加して値を設定します。

```
insert into t_system_configurations t
(
    SYS_CONFIG_ID,
    SYS_CONFIG_NAME,
    SYS_CONFIG_VALUE,
    SYS_CONFIG_PARENT,
    MODIFY_DATE
)
values
(
    seq_sla_sys_config.nextval,
    'cyclelength',
    '7200',
    <インスタンス 5 の SYS_CONFIG_ID>,
    sysdate
)
```

ACE インスタンスのメッセージのログ

CA Business Service Insight のすべてのログ ファイルは、データベースの `T_LOG` ファイルに書き込まれます。このテーブルの `REPORTER_OBJECT` フィールドには、ACE1 によって作成されたすべてのメッセージのログのインスタンス名が含まれています。したがって、特定の ACE1 インスタンスのすべてのメッセージのログを表示するには、`REPORTER_OBJECT = 'PslWriterN'`（ここで `N` はインスタンス番号です）であるすべてのレコードを問い合わせます。

第 5 章: ACE2 (Aggregation and Correlation Engine 2)

ACE2 エンジンはイベント駆動です。このエンジンは、進行に従ってデータベースから情報を受け取ります。イベントに対する ACE2 の応答率は ACE1 エンジンより速くなっています。これは、サイクルで動作しないことが主な理由です。イベント駆動の手法であるため、アダプタの実行から顧客レポートまでが、ACE1 エンジンよりも短い時間で行われます。

ACE2 は 2 つの主要なセグメントから構成されます。

- 管理者はすべての計算と再計算の判断を管理する責任を負います。
- 作業者は、管理者からの手順に基づいて、メトリックを計算することに責任を負います。

管理者は、ミッションキューと呼ばれるメトリック計算の手順キューを保持します。作業者は、類似性のないキューからのメトリックを計算します。この方法はメトリックをインスタンスへ割り当てる必要がないため、システムの負荷が自動的に分散されます。

ACE2 は必要な計算のみを実行します。計算するものが何もない場合はシステムが余分な計算を実行しないため、オーバーヘッドが削減されます。ACE2 が消費するリソースは最小になります。

ACE2 エンジンは、以下のメトリックを処理できません。

- 予測機能を使用するメトリック。
- イベントタイプ別に登録されたメトリック。
- 静的なクラスタ化を使用するクラスタ化メトリック。

注: イベントによって登録されたメトリックを ACE1 エンジンに送信します。ACE2 はこれらのメトリックを認識しません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ACE2 マネージャのコンポーネント](#) (P. 88)

[ACE2 への PSL ワーカーの追加](#) (P. 90)

[ACE2 からの PSL ワーカーの削除](#) (P. 91)

[ACE2 の機能](#) (P. 91)

ACE2 マネージャのコンポーネント

ACE2 は複数の主要なコンポーネントに分割されています。各コンポーネントは計算管理プロセスの特定の部分を担当します。

1 つの ACE2 マネージャのみが存在できます。t_system_configurations または UI 設定の ACE2_server 設定で ACE2 マネージャを定義します。

重要: セカンダリ APP サーバをインストールする場合は、セカンダリ サーバ上の ACE2 マネージャサービスを無効にします。最初のサーバ上のマネージャが、新しいサーバ上のワーカーを管理します。

コンポーネントを以下に示します。

タスク マネージャ

契約ブリッジから受信したイベントに応じて、ACE2 によって処理されるすべてのタスクのリポジトリを保守します。

関連付けマネージャ

メトリックを登録することにより、タスクおよびそれに関連するリソースの接続を処理します。

- 指定された特定のデータ イベントに影響を受けるタスクを判別します。
- 指定されたタスクおよびタイムスタンプに関連するリソースと同じ種類のもののリストを判別します。

トポロジ マネージャ

リソース ツリー構造およびリソース ツリーの変更による影響に関する応答を提供します。

計算境界

タスク内の影響外部イベントを集約します。計算境界は、次の計算の下限および上限を決定します。受信した最も初期のイベントが下限を決定します。上限は以下のイベントに基づきます。

- 現在の上限より遅く到着したイベント。
- 期間の終了などのライフサイクルのイベント。

システムでイベントが発生していない場合、計算は開始されません。

スケジューラ

アナライザによって行われた判断に基づいて計算を開始します。スケジューラは計算を均一な単位に分割します。アナライザが前の再計算の必要性を識別すると、スケジューラは再計算を停止します。

ACE2 ブリッジ

ACE2 マネージャは、ACE2 ブリッジからイベントを受信します。各イベントは分析され、ACE2 マネージャは影響を受けるすべてのタスクを検索します。ここで、タスクは特定の時間単位でのメトリックの計算です。その結果、管理者により計算または再計算が開始されます。

ACE2 ブリッジのリスト

ACE2 の計算は、データベース内の分離されたテーブルを基にしており、ほかの CA Business Service Insight システムと直接通信しません。全般的なシステムとエンジンとの間のすべての通信は、ブリッジと呼ばれる通信チャネルを介して行われます。各ブリッジは特定の通信タスクを行い、それが動作している Insight システム内の特定の変更についてエンジンに通知します。

ACE2 ブリッジのリストを以下に示します。

契約ブリッジ

契約およびその関連メトリックの変更を探索し、ACE2 に（および ACE2 から）メトリックをマイグレートするリクエストを処理します。

モジュール ブリッジ

モジュールの変更を分析します。

例外ブリッジ

例外の有効化および無効化を探索します。

リソース ブリッジ

リソース構造体の変更を探索します。

データブリッジ

Raw データ イベント、修正、およびイベント再利用イベントに応じて、イベントを追加、削除、および更新します。

ACE2 への PSL ワーカーの追加

パフォーマンスを最適化するには、同じサーバ上で複数の PSL ワーカーを追加します。ACE2 マネージャは、自動的に複数のワーカーにジョブを割り当てます。各ワーカー サービスは単一のスレッドです。たとえば、アプリケーションサーバには、1 つの ACE2 マネージャおよび 3 つの ACE2 ワーカーがあります。

重要: ACE2 ワーカーは徐々に追加し、必要以上の数のワーカーを作成しないでください。利用可能なハードウェアおよび契約に対して必要以上に多くのワーカーをインストールすると、パフォーマンスが急速に低下します。

次の手順に従ってください:

1. アプリケーションサーバでサービスを開きます（[スタート]、[サービス] をクリックするか、検索ボックス内をクリックして「services.msc」と入力し、Enter キーを押します）。

[サービス] ウィンドウが表示されます。

2. Oblicore - PslWorkerN サービスを見つけます。ここで、N は整数です。

例えば、「Oblicore - PslWorker1」です。

注: N はサービス「Oblicore - PslWorkerN」に属する最も大きな整数です。

3. 以下のコマンドを実行します。

```
wrapper.exe -i .%wrapper.conf set.APPN=[N+1] set.service_user=%Administrator  
set.service_password=[my_pass]
```

ここで、[my_pass] は CA Business Service Insight 管理者パスワードです。

例 :

```
wrapper.exe -i .%wrapper.conf set.APPN=2 set.service_user=%Administrator  
set.service_password=oblicore
```

4. コマンドウィンドウの以下の応答は、別の Pslworker サービス (N+1) が作成されたことを示します。

```
wrapper | Oblicore - PslWorker2 installed.
```

注: 各 Oblicore - PslWorker サービスは一意である必要があります。すでに存在する Oblicore- PslWorkerN サービスの作成を試みるたびに、以下の応答がコマンドウィンドウに表示されます。

```
wrapper | CreateService failed - The specified service already exists. (0x431)
```

ACE2 からの PSL ワーカーの削除

非常に多くの PSL ワーカーを追加すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。以前の状態に戻すには、PSL ワーカーを削除します。

次の手順に従ってください:

1. アプリケーション サーバでサービスを開きます。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
wrapper.exe -r .¥wrapper.conf set.APPN=N set.service_user=user  
set.service_password=password
```

いいえ

削除する PSL ワーカーを指定します。

user

ユーザ名を定義します。アプリケーションをインストールした Windows ユーザを使用します。

password

ユーザのパスワードを指定します。

サーバによって PSL ワーカーが削除されます。

ACE2 の機能

以下のセクションでは、ACE2 の機能をリストで示します。

継続的な計算

継続的な計算では、契約バージョン間で計算を継続することができます。サービス レベルを計算するためにビジネス ロジックによって使用されるデータは、後続の契約バージョンから自動的にアクセス可能になります。この機能によって、契約管理者は新しい有効期間を持つ新規契約バージョンを作成し、グローバル変数の内容を維持することができます。この機能は、計算の続行を可能にし、新規契約バージョンがグローバル変数の値にアクセスできるようにします。ACE2 の計算は常に継続的です。

ACE2 での計算順序

このセクションでは、ACE2 がそのメトリックを計算する順序を決定する方法について説明します。

イベントを送信するメトリックは、それら同じイベントを受信するメトリックより前に計算される必要があります。ACE2 マネージャは計算順序を自動的に処理します。

計算の順序はインスタンス固有です。イベント再利用階層が ACE1 と ACE2 のインスタンス間で配布される場合、ACE2 は、そこに割り当てられたメトリックの順序だけを処理します。

注: ACE1 の場合と同様に、ACE2 制限内で、ACE2 にイベント再利用チェーン全体を割り当てておくことを推奨します。イベント再利用チェーン全体を同じインスタンスに割り当てておくことを推奨します。

- イベント再利用がある場合、イベントを送信するメトリックはイベントを受信するメトリックに先行する必要があります。

計算ポリシー

計算ポリシーは各メトリックに割り当てられ、それが受信されるイベントへのメトリックの応答時間を決定します。ミッションのスケジューリングは計算ポリシーに基づきます。システムでは2つの事前定義済み計算ポリシーが提供されます。

- システム デフォルト計算ポリシー
- 追加する他の計算ポリシー

必要に応じて他のポリシーを追加できます。任意のポリシーを任意のメトリックへ割り当てることができます。このダイアログ ボックスへは管理メニューからアクセスできます。

メトリックにはそれぞれ固有の計算ポリシーが割り当てられます。計算ポリシーの割り当ては、いつでも変更できます。この変更はインスタンス管理ページから行います。

各計算ポリシーには、各時間単位の最小分数と最大分数のペアが保持されます。このダイアログ ボックスへは、[管理] - [ACE 管理] - [計算ポリシー] でアクセスできます。[新規追加] ボタンをクリックします。

- 最小分 - イベントの到着開始後、計算開始までに待機する分数。この時間枠は、計算開始前に複数のイベントが到着することを許容し、誤った開始および不必要な再計算を防ぎます。
- 最大分 - 到着するイベントがない場合に、計算を行わずにメトリックが待機する最大時間。

デフォルト ポリシー

CA Business Service Insight には、2つのデフォルト計算ポリシーがあります。

- クラスタ化されていないメトリック用のデフォルト
- クラスタ化メトリック用のデフォルト

クラスタ化されていないメトリック用のデフォルト

この計算ポリシーは、すべてのクラスタ化されていないメトリックにメトリック作成時に割り当てられます。

計算ポリシーのデフォルト定義は以下のように定義されます。

計算同士の間の最小時間

- すべての粒度で 10 分。

■ 計算同士の間の最大時間

- 各粒度の前の粒度の最大値（分）。たとえば、YEAR の計算の最大値は QUARTER です。

クラスタ化メトリック用のデフォルト

この計算ポリシーは、クラスタ化メトリックにメトリック作成時に割り当てられます。クラスタ化の計算時間はより長くなるため、このポリシーが存在します。システムはクラスタ化メトリックおよび標準メトリックを区別します。

ポリシーは、クラスタ化されていないメトリックに対して、同じ最大時間をデフォルトにします。ただし、最小時間値は 10 分ではなく 30 分です。

注: タスクが計算に使用されるたびに、最小値は初期化されます。

ユーザが適切と判断した場合は、どちらのデフォルト計算ポリシーも後で編集し調整できます。

注: タスクが計算に使用されるたびに、最小値は初期化されます。

ユーザが適切と判断した場合は、どちらのデフォルト計算ポリシーも後で編集し調整できます。

モニタリングおよび制御

ACE2 データをすべて再ロードし、ACE2 に割り当てられたすべてのメトリックが完全に再計算されるようにすることができます。

以下を再計算するように ACE2 に命じることができます。

- 契約のすべてのメトリック
- 単一のメトリック
- 単一のタスク

注: かなり前からの再計算を強制すると、所要時間が長くなります。

JBOSS 管理コンソールを使用して再計算を強制できます。

ブラウザから、
に移動します。

<http://servername:8280/jmx-console/HtmlAdaptor?action=inspectMBean&name=com.oblicore.manager.services.service%3DTaskManagerService>

アクティブ化できる強制再計算アクションのオプションは 4 つあります。

- forceGlobalRuleAndTimeUnitRecalc
- forceContractRecalc
- forceTaskRecalc
- forceGlobalRuleRecalc

各アクションには、日付、および ID 番号が割り当てられ、それによりタスクが再計算されます。再計算を強制するには、再計算させる関連オブジェクトの ID を指定します。再計算を開始したい日付を指定します。

第 6 章: レポート

CA Business Service Insight は、システムをモニタし、正常に動作していることを検証するためのレポートを提供します。このプログラムは、トラブルシューティングプロセスを支援するレポートを生成します。これらのレポートは、エンジン、セキュリティの問題およびデータベースに関する情報をユーザに提供します。レポートの使用により、大量のデータを迅速かつ効果的に収集し、編成し、分析することができます。

レポートは以下のカテゴリに分類されます。

- 管理レポート
 - 管理 ACE2 レポート
 - 管理その他レポート
 - 管理 PSL レポート (ACE1)
 - 管理セキュリティ レポート
- 管理 DB レポート
- 事前定義済みレポート

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[管理レポート](#) (P. 97)

[データベース レポート](#) (P. 111)

[事前定義済みレポート](#) (P. 116)

[コマンドラインからのサービスの実行](#) (P. 120)

管理レポート

このセクションでは、管理レポートについて説明します。これらのレポートは、エンジンおよびセキュリティの問題に関する情報をユーザに提供します。レポートの使用により、大量のデータを迅速かつ効果的に収集し、編成し、分析することができます。

データ ロード中フォーム - 保留中レコードを表示

選択したフォームの保留中レコードをすべて表示します。

管理 - スケジュール ステータス

「スケジュールのステータス」レポートには、スケジュール済みのすべてのレポートのステータスが一覧表示されます。このレポートには以下の列が表示されます。

レポート名

スケジュール済みレポートの名前。

ステータス日

レポートの生成がスケジュールされている日付と時刻。

送信ステータス

レポートのステータス。

- レポートが正常に送信された場合、このフィールドには送信された日付と時刻が表示されます。
- レポートがまだ送信されていない場合、このフィールドは空白になります。

エラー ステータス

エラー ステータスを示します。

- エラーがなかった場合、このフィールドは空白になります。
- エラーがあった場合、このフィールドにはエラーの詳細が表示されます。

管理 ACE2 レポート

[分析済み変更管理]レポート(ACE2)

[分析済み変更管理] レポートには、以下のいずれのイベントを ACE2 システムが受信したかが一覧表示されます（変更タイプ）。

日付

契約の名称。

エンティティ名

イベント ソースの名称。たとえば、新しい SLA がコミットされた場合、レポートにはシステムがイベント ソースを認識した時刻および名称 (SLA) が示されます。

変更タイプ

変更タイプは ACE2 システムが受信したイベントで、以下のいずれかになります。

- コミットされた契約
- マイグレートされた契約
- アーカイブ済み契約
- コミットされたビジネス ロジック モジュール

管理 ACE2 - 契約別の計算スケジュール

このレポートには、ACE2 で進行中のすべての計算のステータスが契約別に表示されます。

- タスクがどの程度戻って計算されたかを判断します。
- 契約ごとに、タスクが次の計算のためにスケジュールされるタイミングを判断します。
- 再計算理由が発生したかどうか判断します。
- 計算がいつ開始したかを示します。
- タスクのステータスを示すサマリ文も含まれています。

注: レポートの生成を要求される場合は、ポップアップ ダイアログ ボックスが表示され、そこで契約名を入力できます。

管理 ACE2 - ワーカー キュー モニタリング

このレポートには、ミッション キューの負荷が時間単位で表示されます。このレポートを使用すると、負荷をモニタし、計算を速くする場合に作業者を追加したり、システム リソースを節約するために作業者の作業を停止することができます。

ミッション キューの負荷を表示するリクエストがだされると、グラフが表示されて以下の内容が示されます。

- 計算のミッション。
- 完了したミッション。
- キュー サイズ。

その他のレポート

以下のセクションではその他のレポートについて説明します。

管理その他 - アダプタ ステータス

〔管理その他 - システム環境設定〕レポートには、前回のイベント、リソース、イベント タイプおよび到着時のアダプタ タイム スタンプが表示されます。

このレポートには以下の列が含まれます。

アダプタ

イベントを生成したアダプタ。

前回のイベントのタイム スタンプ

前回のイベントの時刻が表示されます。

リソース

リソースの名前です。

イベントタイプ

イベントのタイプです。

到着時刻

イベントの到着した時刻が表示されます。

管理その他 - 受信者ごとのアラート プロファイル

アラート プロファイル レポートには、ユーザのアラート プロファイルが表示され、以下の列が含まれています。

受信者

アラート受信者の名前。

アラート プロファイル

アラート プロファイルの名前。

注: 受信者とアラート プロファイルの間には、多対多の関係が存在します。1つのアラート プロファイルを複数の受信者が持ったり、1人の受信者が複数のアラート プロファイルを持つことができます。

管理その他 - リソース情報

[管理その他 - リソース情報] には、次のリソース情報が表示されます。

- リソース名
- ステータス
- バージョン作成日
- バージョン作成ステータス
- 有効期間開始日
- バージョン削除日
- バージョン削除ステータス
- 有効期間終了日
- バージョン削除予定日
- バージョン削除予定ステータス
- 作成日

管理その他 - SLALOM ランタイム エラー

〔SLALOM ランタイム エラー〕 レポートには、SLALOM ランタイム エラーがすべて表示され、以下の列が含まれています。

契約

契約名。

バージョン

契約バージョン。

ルール

メトリック名。

エラー

ランタイム エラーの説明。

管理その他 - システム環境設定

〔管理その他 - システム環境設定〕 には、システム環境設定パラメータおよびリストが表示されます。

名前

パラメータの名前とその値を表示します。

管理その他 - システム統計

〔システム統計〕 レポートには、システム内に存在する各タイプのエンティティの数が一覧表示されます。データ バージョンのレポートでは、情報が表形式で表示されます。グラフィック バージョンのレポートでは、情報がグラフとして表示されます。このレポートには以下の列が含まれています。

エンティティ

エンティティ（アダプタのアラート プロファイル、契約関係者、契約（アクティブ）、契約（合計）、修正、レポートなど）。

総数

各エンティティの数。

注: このレポートをグラフ形式で表示するには、〔グラフ〕 タブをクリックします。

管理 PSL (ACE1) レポート

管理 PSL - 計算ステータス

[計算ステータス] レポートでは、エージェント レベルでルール of 計算ステータスが表示され、以下の列が含まれています。

契約

契約の名称。

ルール

メトリックの名称。

トラッキング期間

メトリックのトラッキング期間： HOUR、DAY、WEEK、MONTH、QUARTER、YEAR。

最終更新日時

最新の計算結果の日付と時刻。

最後のサイクル開始時刻

前回メトリックのサイクルが開始された日付と時刻。

再計算開始が必要になる日付

ACE1 が再計算を開始する状態の日付と時刻。再計算が必要ではない場合、このフィールドは空白となります。

[前回の更新時刻]

エージェント（契約、ルール、およびトラッキング期間によって定義されます）が前回更新された日付と時刻。

処理したエンジン番号

ACE1 のインスタンス番号（N）。

管理 ACE2 - 契約別の現在の計算ステータス

[ACE2 - 契約別の現在の計算ステータス] レポートには、ACE2 で進行中のすべての計算のステータスが契約別に表示されます。 It

- 現在実行されている計算の契約別のステータスおよび進捗状況が表示されます。
- 計算が最新ではないことをシステムがすでに認識しているかどうか、および再計算が必要かどうかとも示されます。

注: レポートの生成を要求される場合は、ポップアップ ダイアログ ボックスが表示され、そこで契約名を入力できます。

契約

契約の名前。

計算の完了した契約

はい/いいえ

計算するメトリックの数

契約で計算するメトリックの数。

エラーの発生したメトリックの数

エラーの発生したメトリックの数。

計算開始が必要になる日付

メトリックは、この日付からの再計算を必要とします。

[前回の更新時刻]

最後に更新された日付。

管理 PSL - サイクル ステータス

[サイクルのステータス] レポートには、サイクルの計算ステータスが表示され、以下の列が含まれています。

タイトル

ROWNUM

現在の行番号。

INSTANCE

ACE エンジンのインスタンス番号 (N)。

アクティブなエージェント数

現在アクティブなエージェントの合計数。

前回のサイクル時間

前回のサイクルが開始された時刻。

前回のサイクルで計算済み

前回のサイクルで計算されたエージェントの数。

前回のサイクルで未計算

前回のサイクルで未計算のエージェントの数。

過去 24 時間に計算済み

過去 24 時間に計算されたエージェントの数。

過去 24 時間に未計算

過去 24 時間に未計算のエージェントの数。

長い再計算 (30 日超)

30 日を超える計算ギャップがあるエージェントの数。

最も早い再計算

最も早い再計算の日付と時刻。

ランタイム エラーが発生したルール

このサイクルでランタイム エラーが発生したメトリックの数。

データ パージ - 履歴 (ACE1)

「データ パージ - 履歴」レポートには、データ パージの履歴が表示され、以下の列が含まれています。

契約名

該当なし

実行されたパージのタイプ

実行されたパージのタイプ。

注: パージできるのは **Raw** データのみであるため、この列の値は常に「Raw データ」です。

パージ完了日時

データのパージが完了している日付と時刻。

パージの時間単位

該当なし

パージリクエスト日

パージがリクエストされた日付。

パージ完了日

パージが完了した日付。

管理 PSL - データ パージ - ステータス (ACE1)

[データ パージ - ステータス] レポートには、システム内のデータ パージ リクエストの現在のステータスがまとめて表示されます。このレポートには以下の列が表示されます。

タイトル

新規パージ リクエスト

まだアクティブになっていない新しいパージ リクエストの数。パージを処理するサブサイクルは、ACE1 サイクルの最初にあります。このサブサイクルの後にパージがリクエストされた場合、次のサイクルまでパージされません。そのステータスは新しいパージ リクエストとなります。

アクティブなパージ リクエスト

システムが現在処理しているパージ リクエストの数。数値が 0 より大きい場合、1 つ以上のエージェントが計算を処理しています。

パージされる契約数

該当なし

保留中のパージ エージェント数

現在計算されていないが、パージする前に計算する必要があるエージェントの数。

過去 48 時間に完了したパージ数

過去 48 時間に実行されたパージの数。

過去 7 日間に完了したパージ数

過去 7 日間に実行されたパージの数。

過去 7 日間に完了しなかったパージ リクエスト数

過去 7 日間で完了しなかったパージ リクエストの数。この数は、パージに関係するエージェントが非アクティブであったために完了しなかったパージ数を表します。

現在の Raw データ パージの境界

前のデータがすべてパージされたため、これ以前に Raw データがない日付。Raw データがある最初の日付。

計算されたデータ

計算されたデータのパージ リクエストの数を一覧表示します。

注: 計算されたデータのパージは可能になっていないため、この列は関係がありません。

Raw データ

Raw データのページ リクエストの数を一覧表示します。

将来の計算 (ACE1)

〔将来の計算〕 レポートには、まだ計算されておらず、さらに処理する必要があるメトリックの情報が表示されます。

このレポートの最初の行は、レポート内に含まれているすべての顧客のサマリです。その次には、レポート内の顧客ごとに 1 つの行があり (**ALL**)、その顧客のすべてのメトリックのサマリが含まれています。その後、メトリックごとに 1 つの行があり、それにはメトリックに関連するすべての情報が含まれています。

このレポートには以下の列が表示されます。

顧客

顧客の名前。

ルール

メトリックの名前。

注: ルールとは、エージェントを意味しており、レポートの作成時に指定された時間単位内にあるメトリックです。

未処理日数

さらに処理する必要がある日数。

前回計算の最終日時

前回のメトリックの結果が計算された日付と時刻。

新規リソース/契約バージョン

リソースまたは契約のバージョン。

新規 Raw データ

新しい Raw データ。

新規例外

新しい例外。

将来の計算は、新しいリソースまたは契約バージョン、新しい Raw データ、あるいは新しい例外のために必要になります。以下の 3 つの列は、再計算が行われる可能性がある 3 つの原因に対応しています。再計算理由を定義する列は必要で、実際の再計算の日時が含まれます。適用のない理由に対応するフィールドは、空白のままになります。

再計算する理由がある場合、関連する列には日付が含まれ、その日付から再計算が必要になります。例として、**1/1/10** からの新しい **Raw** データ エントリがある場合、新しいデータ列には **1/1/10** が含まれます。ほかに再計算する理由がない場合、他の列は空になります。

[将来の計算のサマリ](ACE1)

[将来の計算のサマリ] レポートには、システムに残っている、エージェントが処理する計算の日数が要約されています。このレポートには以下の列が表示されます。

日間

残りの計算日数。

エージェント

さらに計算が必要なエージェントの数。

クラスタ エージェント

さらに計算が必要なクラスタ エージェントの数。

クラスタ エージェント日数

クラスタ エージェントの計算をすべて完了するために必要な日数。

ACE1 レコード

計算に利用されるテーブル内の行数。

注: このレポートをグラフ形式で表示するには、[グラフ] タブをクリックします。

再計算が必要なメトリックの数(グラフ)

機能しますが非推奨です。

このレポートは古いインストールでのみ使用してください。

再計算が必要なメトリックの数

機能しますが非推奨です。

このレポートは古いインストールでのみ使用してください。

セキュリティレポート

以下のセクションではセキュリティ レポートについて説明します。

ユーザの権限

[ユーザの権限] レポートには、各ユーザの権限が一覧表示され、以下の列が含まれています。

ユーザ

ユーザ名。

エンティティ

権限が定義されているエンティティ。

以下の列によって、ユーザの権限が定義されます。ユーザが権限を持っている場合は、フィールドに「X」が表示されます。そうでない場合は、空白になります。

- 表示
- 追加
- 更新
- 削除

データベース レポート

このセクションでは、管理データベース レポートについて説明します。これらのレポートはデータベースに関する情報をユーザに提供します。レポートの使用により、大量のデータを迅速かつ効果的に収集し、編成し、分析することができます。

データベース オブジェクトの分析ステータス

[データベース オブジェクトの分析ステータス] レポートには、すべてのデータベース オブジェクトおよびそれらの前回の分析とデフォルトの分析設定が一覧表示され、以下の列が含まれています。

注: このレポートには Oracle の sys 権限が必要です。

TABLE_NAME

CA Business Service Insight のテーブル名。

ANALYZED

オブジェクトが前回分析された日付および時間。

Oracle のパラメータ リスト

[Oracle のパラメータ リスト] レポートには、Oracle のパラメータのリストが表示され、以下の列が含まれています。

注: このレポートには *Oracle* の *sys* 権限が必要です。

NAME

パラメータ名。

TYPE

パラメータのタイプ。

VALUE

パラメータの値。

DESCRIPTION

パラメータの説明。

ISSES_MODIFIABLE

セッションのスコープを変更できるかどうかを示します。

ISSYS_MODIFIABLE

システムのスコープを変更できるかどうかを示します。

ISDEFAULT

パラメータがシステム デフォルトのパラメータかどうかを示します。

ISMODIFIED

パラメータが変更されているかどうかを示します。

ISADJUSTED

パラメータが調整されているかどうかを示します。

テーブル インデックス

[テーブル インデックス] レポートには、CA Business Service Insight のすべてのテーブルおよび対応するインデックスが一覧表示され、以下の列が含まれています。

注: このレポートには Oracle の sys 権限が必要です。

TABLE_NAME

テーブル名。

INDEX_NAME

インデックス列の名前。

INDEX_TYPE

インデックスのタイプ。

UNIQUENESS

インデックスが一意であるかどうかを示します。

COLUMN_POSITION

インデックス位置の順序を示します。

COLUMN_NAME

インデックスが順序付けされる列の名前を示します。

テーブルスペースのステータス

[テーブルスペースのステータス] レポートには、割り当て済みの各テーブルスペースの実際の使用状況のステータスが一覧表示されます。このレポートには以下の列が表示されます。

注: このレポートには Oracle の sys 権限が必要です。

STATUS

テーブルスペースがオンラインであるかどうかを示します。

NAME

テーブルスペースの名前。

TYPE

テーブルスペースのタイプ。

EXTENT_MANAGEMENT

領域の拡張リクエストを管理する方法を示します。

SIZE (M)

テーブルスペースに割り当てられている領域の総量を示します。

USED (M)

テーブルスペースに割り当てられている総容量のうち、現在使用されている領域の量を示します (4.000/250.000 など)。

USED%

テーブルスペースに割り当てられている総容量のうち、現在使用されている領域の量をパーセントで示します。

テーブルスペースの使用状況

「テーブルスペースの使用状況」レポートには、1つのテーブルスペース当たりのデータ ファイルが一覧表示されます。このレポートは、スペースが複数のファイルにどのように分割されるかを示します。このレポートには以下の列が含まれています。

注: このレポートには Oracle の sys 権限が必要です。

STATUS

テーブルスペースがオンラインであるかどうかを示します。

NAME

テーブルスペースの名。

TABLESPACE

テーブルスペースのファイル名が示されます。

SIZE (M)

テーブルスペースに割り当てられている領域の総量。

USED (M)

テーブルスペースに割り当てられている総容量のうち、現在使用されている領域の量 (4.000/250.000 など)。

USED%

テーブルスペースに割り当てられている総容量のうち、現在使用されている領域の量のパーセント。

事前定義済みレポート

このセクションでは、事前定義済みレポートについて説明します。これらのレポートは、契約（コンプライアンスおよび偏差）に関する情報および（BRVを含む）サービス レベルをユーザに提供します。レポートの使用により、大量のデータを迅速かつ効果的に収集し、編成し、分析することができます。

すべてのメトリック レポート(今月)

このレポートは、今月のサービス提供パフォーマンスに対する詳細ビューを提供します。基準内のすべてのメトリックについて結果とターゲット（関連する場合）を示します。このレポートは、事前定義済みブックレット「サービス提供パフォーマンス（今月）」によって使用されます。

すべてのメトリックレポート(先月)

このレポートは、先月のサービス提供パフォーマンスに対する詳細ビューを提供します。基準内のすべてのメトリックについて結果とターゲット(関連する場合)を示します。このレポートは事前定義済みブックレット「サービス提供パフォーマンス(先月)」によって使用されます。

BRV 契約コンプライアンス(日単位)

この BRV レポートは、日単位の契約コンプライアンスを提供します。このレポートには以下の列が表示されます。

日

契約の特定の日。

違反(カウント)

その日の違反の数。

超過(カウント)

ターゲットを超過したインシデントの数。

BRV 契約コンプライアンス(月単位)

この BRV レポートは、月単位の契約コンプライアンスを提供します。

このレポートには以下の列が表示されます。

月

契約の特定の月。

違反(カウント)

その月の違反の数。

超過(カウント)

ターゲットを超過したインシデントの数。

BRV 契約偏差(日単位)

この BRV レポートは、日単位の契約偏差を提供します。

BRV 契約偏差 (月単位)

BRV メトリック サービス レベル (日単位)

この BRV レポートは、日単位のメトリック サービス レベルを提供し、そのレベルをターゲット、準拠、および違反に分けて一覧表示します。このレポートには以下の列が表示されます。

日

違反

準拠

ターゲット

BRV メトリック サービス レベル (日単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する日単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (時間単位)

この BRV レポートは、時間単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (時間単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する時間単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (月単位)

この BRV レポートは、月単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (月単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する月単位のメトリック サービス レベルを提供します。 [データ] には [月] および [サービス レベル] の列が含まれます。

注: [メイン ドリル メニュー] をクリックしてドリル ダウンし、次のものを選択します。

- 次の年までドリル アップ
- Raw データの表示
- 受信データの表示
- 根本原因コメントの表示
- ビジネスをオフに切り替え
- ターゲットをオンに切り替え
- 偏差に変更

BRV メトリック サービス レベル (四半期単位)

この BRV レポートは、四半期単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (四半期単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する四半期単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (週単位)

この BRV レポートは、週単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (週単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する週単位のメトリック サービス レベルを提供します。

-BRV メトリック サービス レベル (年単位)

この BRV レポートは、年単位のメトリック サービス レベルを提供します。

BRV メトリック サービス レベル (年単位、ターゲットなし)

この BRV レポートは、ターゲットなしのメトリックに対する年単位のメトリック サービス レベルを提供します。

サービス レベル - メトリック対ターゲット(今月)

このレポートは、今月のメトリック別のサービス提供パフォーマンスの詳細ビューを提供します。すべてのメトリックのサービス レベルとターゲットを示します。

サービス レベル コンプライアンス(今月)

このレポートは、今月のサービス提供パフォーマンスに対する全体的なビューを提供します。基準内の各サービスについて、ターゲットを満たした目標の数、およびターゲットに満たなかった目標の数を示します。このレポートは、事前定義済みブックレット「サービス提供パフォーマンス（今月）」によって使用されます。

サービス レベル コンプライアンス(先月)

このレポートは、先月のサービス提供パフォーマンスに対する全体的なビューを提供します。基準内の各サービスについて、ターゲットを満たした目標の数、およびターゲットに満たなかった目標の数を示します。このレポートは事前定義済みブックレット「サービス提供パフォーマンス（先月）」によって使用されます。

コマンドラインからのサービスの実行

CA Business Service Insight サービスは Windows サービスとして実行され、開始および停止はサービス マネージャを介して行われます。ただし、いくつかのサービスはコマンドラインから実行できます。

コマンドラインからの ACE1 の実行

ACE1 をコマンドラインから実行することができます。

以下の手順に従います。

1. コマンドラインから、**-d** パラメータを指定して **PslWriter.exe** を実行します。デフォルトでは、デフォルトのインスタンス（インスタンス 0）が実行されます。
2. 別のインスタンス ID を実行するには、**-x** パラメータを追加して、その後にインスタンス ID を指定します。

たとえば： **PslWriter.exe -d -x17**

コマンドラインからの ACE1 サービスのインストール

ACE1 サービスをコマンドラインからインストールすることができます。

以下の手順に従います。

1. コマンドラインから、**-i** パラメータを指定して **PslWriter.exe** を実行します。デフォルトでは、デフォルトのインスタンス（インスタンス 0）がインストールされます。
2. 別のインスタンスをインストールするには、**-x** パラメータを追加して、その後にインスタンス ID を指定します。

たとえば： **PslWriter.exe -d -x17**

第 7 章: パスワード

このセクションでは、パスワード更新ユーティリティおよび CA Business Service Insight でのパスワード暗号化について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[パスワード更新ユーティリティ](#) (P. 124)

[パスワードの非表示/暗号化](#) (P. 127)

パスワード更新ユーティリティ

パスワード更新ユーティリティは、CA Business Service Insight サービス、CA Business Service Insight COM+ エンジン、および Oracle DB 内のパスワードを変更します。

データベース接続文字列内のパスワードは、CA Business Service Insight バージョン 8.2 で暗号化されているため、複数の設定ファイル内のパスワードを更新するのは困難です。このため、パスワードを手動で更新するのは簡単な作業ではありません。

このユーティリティでは以下が実行されます。

- データベース接続用のパスワードの更新
- データ ソース (TNS 名) の更新
- サービスのパスワードの更新
- COM+ パスワードの更新

以下のいずれかのパスワードを変更した後にプログラムを実行します。

- Windows のパスワード。

ユーザが Windows のパスワードを変更したら、「パスワードの更新」ユーティリティを実行して新しいパスワードを入力します。ユーザが入力したパスワードに応じて、サービス アカウント、パスワードおよび COM+ エンジン認証情報が変更されます。（「ローカル システム」アカウントでない）ユーザアカウントの認証情報を使用している CA Business Service Insight サービスのみが変更されます。

- Oracle の認証情報。

パスワード更新ユーティリティは、CA Business Service Insight によって使用される、以下のさまざまなデータベース ユーザの Oracle DB パスワードを変更する機能を提供します。

- Sla
- Mtn
- Csl
- Edr
- Psl
- Rpt
- Obl

注: ユーザが変更を行うと、

- Obl (oblicore) パスワードの次の 2 つの追加ファイルも変更されます。

- oblisync-ds.xml

- ace2-ds.xml

- CA Business Service Insight ユーザは以下のファイルも変更します。

- DBSource.properties

注:

- Obl パスワードが更新されると、JBoss パスワードが更新されます。
- CA Business Service Insight パスワードが更新されると、SMI パスワードが更新されます。
- パスワード更新ユーティリティは、アカウント **LocalSystem** で実行されるサービスのパスワードを更新しません。

パスワード更新ユーティリティの使用

以下の手順に従います。

1. %OG_HOME%\Utilities\PassUpdate\PassUpdate.exe からのパスワードユーティリティを実行します。

パスワード更新ユーティリティのダイアログボックスが表示されます。すべての接続文字列名およびユーザが一覧表示されます。

2. [データベース] タブで、上部にある [変更] ボタンをクリックしてデータソース (Oracle TNS 名) を変更します。新しいデータソースを入力します。ユーティリティにより、すべての設定ファイル内の TNS 名が変更されます。
3. 任意の接続文字列名の横にあるボタン (...) をクリックし、更新ダイアログボックスを開きます。
4. その接続文字列の新しいパスワードおよび (または) ユーザ名を入力できます。
 - a. [更新] をクリックして、ユーザ名および (または) パスワードを更新します。
5. すべてのユーザにパスワードを適用するには、更新ダイアログボックスを開く前にチェックボックス [すべてのユーザにパスワードを適用する] をクリックします。

変更が行われると、ユーティリティによってすべてのユーザのパスワードが更新されます。

6. Insight 接続文字列。これを SMI コンポーネント用に更新します。

[サービス] タブ内のペインに、ローカル システム以外のアカウントで実行されている CA Business Service Insight サービスがすべて表示されます。

注: このユーティリティでは、ローカル システム アカウントのパスワードは更新されません。

1. [サービス] タブをクリックして開きます。
2. アカウントのユーザ名およびパスワードを指定します。
3. [パスワードの変更] をクリックします。

パスワードがすべてのサービスに対して更新されます。その後、ユーティリティによってサービスが再起動されます。

注: このユーティリティでは、同時に COM+ エンジン用のパスワードも更新されます。

パスワードの非表示/暗号化

パスワードを非表示/暗号化することで、Web UI に入力したパスワードを他のユーザに見られないようにできます。

以前は、データベース接続文字列内のパスワードは Web UI でプレーンテキストとして表示することができました。その結果、Web ページを開いた任意のユーザがパスワードを表示できていました。パスワードを暗号化すると、それらを暗号化された形式でのみ表示することで他のユーザから「隠す」ことができるようになります。

パスワードはプレーンテキストとして表示できなくなりました。代わりに、データベース接続文字列内のパスワードに対してパスワードプレースホルダ（\${PWD}）を使用します。

注: パスワードプレースホルダはハードコードされるため、ユーザが変更することはできません。

パスワードは現在、テキストボックスに「.」で表示されるようになり、パスワードの確認も継続して必要になります。

接続文字列ビルダによって接続文字列から自動的にパスワードが抽出されます。

パスワード暗号化は以下で使用されます。

- SQL アダプタの接続文字列
- SQL アダプタの接続文字列セグメント
- SQL アダプタのクエリビルダ
- SQL アダプタのテスト接続文字列
- 自由形式レポートの接続文字列
- データロードフォームの接続文字列

パスワードの暗号化の場所

パスワードは以下の場所に暗号化されます。

- Registry.xml ファイル

%OG_HOME%\bin¥Registry.xml

- Sla
- Mtn
- Csl
- Edr
- Psl
- Rpt
- Obl
- Dash

暗号化されたパスワード文字列は、通常このように見えます。

```
<Sla>*securestring*
52MA7A+BQHuxHQboGUEQ+DlRIoAzKZSgWbKpdSZOPnIlkh3li89qMmUrJulHyeNNuu6dHRN
ZAwWlmE45RPja83zCwcyK7NNtZ6oGjCIfKCK4TVduxCN/kxDzLFmZa/mlyFRTIbeJbYFB5H
SpqkM2C1X5F22JxYuz</Sla>
```

- %OG_HOME%\¥Tomcat¥conf¥DBSource.properties

プロパティの「暗号化」を "Y" に設定すると、SMI ではパスワードが暗号化テキストとして扱われます。

- JBoss。

Oblisync および ACE2 は JBoss で実行されます。パスワードは設定ファイルで暗号化されます。

```
%OG_HOME%\standalone¥configuration¥standalone-full-0blisync.xml
%OG_HOME%\standalone¥configuration¥standalone-full-ACE2.xml
<security>
  <security-domain>encrypted-oblisync-defaultds</security-domain>
</security>
<security-domain name="encrypted-oblisync-defaultds" cache-type="default">
  <authentication>
    <login-module
      code="org.picketbox.datasource.security.SecureIdentityLoginModule"
      flag="required">
      <module-option name="username" value="obl" />
      <module-option name="password" value="2f34371127b18a0b" />
    </login-module>
  </authentication>
</security-domain>
```

パスワードの非表示(暗号化)

接続文字列の作成には、以下の 3 つの方法を使用できます。

- 接続文字列ビルダ
- 接続文字列テンプレート
- 接続文字列の手動による書き込み（手順は記載しません）

接続文字列ビルダ

以下の手順に従います。

1. [デザイン] - [データ取得] - [アダプタ] に移動します。
2. [新規追加] をクリックします。
アダプタ ウィザードが表示されます。
3. (アスタリスク * でマークされた) 必須パラメータを入力し、[次へ] をクリックして接続手順に進みます。
接続手順が表示されます。
4. データベース タイプを選択します。
5. [接続文字列の設定] をクリックします。
データ リンク プロパティのダイアログ ボックスが表示されます。
6. OLE DB プロバイダを選択し、[次へ] をクリックします。
[接続] タブが表示されます。
7. 必要な情報を入力します。
8. [テスト接続] をクリックし、[OK] をクリックします。

接続文字列テンプレート

以下の手順に従います。

1. [デザイン] - [データ取得] - [アダプタ] に移動します。
2. [新規追加] をクリックします。
アダプタ ウィザードが表示されます。
3. (アスタリスク * でマークされた) 必須パラメータを入力し、[次へ] をクリックして接続手順に進みます。
接続手順ダイアログ ボックスが表示されます。
4. データベース タイプを選択します。
[テンプレートから選択] をクリックします。

5. [データ ソース テンプレート] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. 適切なテンプレート (Oracle) を選択し、[OK] をクリックします。
情報が [接続文字列] テキスト ボックスおよびパスワード フィールドに表示されます。
7. 一般的なテンプレート情報 ("Source=MyTNSAliasName" および "UserId=MyUsername" など) を正しい情報に置換します。
8. パスワードおよびパスワード検証フィールドにパスワードを入力します。
9. 接続をテストします。

接続文字列の場所

接続文字列は、CA Business Service Insight メニューの以下の場所にあります。

アダプタ

- [デザイン] ¥ [データ取得] ¥ [アダプタ] ¥ [新規追加] ¥ [SQL アダプタ] ¥ [次へ] ¥ [接続文字列]
- [デザイン] ¥ [データ取得] ¥ [アダプタ] ¥ [新規追加] ¥ [SQL アダプタ] ¥ [次へ] ¥ [詳細] ¥ [接続文字列セグメント] ¥ [セグメントの追加] ¥ [セグメント詳細]
- [デザイン] ¥ [データ取得] ¥ [アダプタ] ¥ [新規追加] ¥ [SQL アダプタ] ¥ [次へ] ¥ [次へ] ¥ [クエリー ビルダを開く] ¥ アダプタ内のクエリー ビルダ
- [デザイン] ¥ [データ取得] ¥ [アダプタ] ¥ [新規追加] ¥ [SQL アダプタ] ¥ [次へ] ¥ [次へ] ¥ [詳細] ¥ [テスト接続文字列] ¥ テスト接続文字列

データ ロード フォーム

GUI のパスは以下のとおりです。

- [デザイン] ¥ [データ取得] ¥ [データ ロード フォーム] / [新規追加] ¥ 「DropDownItems」をドラッグ ¥ [プロパティ] ¥ [アイテム] ¥ [収集] ボタン ¥ [データ ソースからのアイテムの選択] ¥ データ ソースの選択 ¥ データ ソース設定ウィザード

自由形式レポート

- [レポート] ¥ [レポート フォルダ] ¥ [新規追加] ¥ [自由形式レポート] ¥ 接続文字列およびパラメータ
 接続文字列にパラメータ内のパスワードを使用する場合は、パラメータ内のパスワード用のトークンを接続文字列で使用する必要があります。
- [レポート] ¥ [レポート フォルダ] ¥ [新規追加] ¥ [自由形式レポート] ¥ [クエリー ビルダを開く] ¥ クエリー ビルダ